



東京歯科大学広報



記念式典で式辞を述べる下野学校長：平成21年9月12日(土)、ホテルニューオータニ幕張・鶴の間

本学歯科衛生士専門学校創立60周年 - 記念式典・講演会・祝賀会開催 -

東京歯科大学歯科衛生士専門学校は、1949年に日本で最初の歯科衛生士教育機関として開校して以来、およそ2,100名の卒業生を送り出しており、創立記念日にあたる平成21年9月15日(火)に満60周年を迎えることとなった。これに先立ち、9月12日(土)の午前11時より、「ホテルニューオータニ幕張・鶴の間」において、東京歯科大学歯科衛生士専門学校と同窓会との共催で、記念式典・記念講演および祝賀会が、ご来賓や御招待者、講師、

職員などの関係者と、多数の卒業生に1年生から3年生までの学生たちを加え、総勢400人を越える参加者を集めて盛大に催された。

記念式典は眞木吉信副校長の司会で始まり、東京歯科大学歯科衛生士専門学校同窓会の中井麗子会長より、創立60周年記念式典の開催にあたり、歯科衛生士専門学校と同窓会との共同開催の経過報告があった。続いて下野正基学校長から、現在の歯科医療が置かれた厳しい状況の中、歯科衛生士が果たす役割

2009年 7・8・9月

238号

本号の主な内容

- ・歯科衛生士専門学校創立60周年
- ・第41回歯学体夏期部門開催
- ・大学教育・学生支援推進事業
- 【テーマA】大学教育推進プログラム採択
- ・北京大学口腔医学院と姉妹校協定および鄭州大学口腔医学院と友好協力協定締結
- ・平成21年度科学研究費補助金決定

の重要性と共に、教育機関としての今後のあり方と未来を展望する式辞が述べられた。学校法人の代表として熱田俊之助理事長より歯科衛生士養成機関としての草創期のエピソードを挟みながら、現在の東京歯科大学歯科衛生士専門学校についてのご挨拶を頂いた。さらに、金子 譲東京歯科大学学長からは、大学の水道橋移転にともなう東京歯科大学歯科衛生士専門学校のありかたについて述べられ、将来的な展望として、歯科衛生士教育の主体は歯科衛生士がおこなうべきであるとともに、本校が日本で最初の教育機関でありその先導性からも、4年生大学への移行については、今後、十分に検討していかなければならない事項であるとお話を戴いた。続いて、社団法人日本歯科衛生士会の金澤紀子会長より、長年にわたって歯科衛生士教育に尽力してきた本校に対して、心のコもったお祝いのお言葉を頂いた。

終わりに、10年以上の間、本校の正講師あるいは副講師を務めて頂いている47名の講師に、永年勤続者表彰が行われた。薬師寺 仁東京歯科大学副学長が代表として挨拶されるとともに、下野学校

長より表彰状とガラス製花瓶が記念品として贈呈され、午前11時30分、式典は滞りなく終了した。

記念講演会では、テレビなどのメディアでもなじみが深く、政治・経済・環境問題などの領域で鋭い論評をされている毎日新聞社特別編集委員の岸井成格(きしいしげただ)先生のお話しに耳を傾けた。講演当日は、衆議院総選挙の政権交代の衝撃も冷めやらぬなか、まさに民主党による鳩山内閣が成立する直前であり、「文明の岐路に立つ世界と日本」というスケールの大きなタイトルで、日本の政治の現状と将来について、数多くの歴史的な場面の最前線に、新聞社の特派員や編集・論説委員として実際に立ち会ってこられた体験を通して、わかりやすい言葉で聴衆に話しかけた。

岸井先生は、ニュース時事検定協会や森びとプロジェクト委員会の理事長もされていることから、エネルギー問題や環境問題についても造詣が深く、100年前に石川啄木が著した「林中の譚」の現代語訳として出版された「サルと人と森」という一冊の本を通して、環境問題について、今、考えることの大切さを力説し、会場からの盛大な拍



東京歯科大学歯科衛生士専門学校同窓会、中井会長による経過報告：平成21年9月12日(土)、ホテルニューオータニ幕張、鶴の間



下野学校長より永年勤続者の代表として表彰を受ける薬師寺副学長：平成21年9月12日(土)、ホテルニューオータニ幕張、鶴の間



記念特別講演で熱弁をふるう岸井毎日新聞特別編集委員：平成21年9月12日(土)、ホテルニューオータニ幕張、鶴の間



記念祝賀会で乾杯の音頭をとる石川前学長：平成21年9月12日(土)、ホテルニューオータニ幕張、鶴の間

手のなか、一時間にわたる記念講演を終えられた。

記念祝賀会は、午後1時より、隣接する会場に席を移し、嶋村一郎教務部長の司会のもと、下野学校長の挨拶により開会した。はじめに、ご来賓の厚生労働省・日高勝美歯科保健課長より丁寧なご祝辞を頂いたあと、全国歯科衛生士教育協議会を代表し、同協議会の顧問であり、東京歯科大学歯科衛生士専門学校の前校長の石川達也東京歯科大学前学長の乾杯の音頭により、祝宴が始まった。

東京歯科大学 Big Band Jazz 部OBの4人のメンバーによる軽快な演奏に誘われるように、広い会場内のあちこちで、久しぶりに再会する仲間や恩師たちと共に、ゆっくりとした談笑の輪がひ



記念祝賀会でのひとこま。後列左より、服部玄門先生、熱田理事長、下野学校長、金子学長、澤 潤先生、岸井先生、石川前学長；平成21年9月12日(土)、ホテルニューオータニ幕張、鶴の間

ろがっていった。会場中央の円卓では、ご来賓の先生方と共に、岸井成格先生のまわりに参加者が集まり、記念写真に収まる姿が何度も見られた。

和やかな雰囲気の中、壇上から百束雅子同窓会顧問から歯科衛生士校第一期生の頃の思い出が語られたあと、現在も合唱グループに参加しておられるという中井同窓会長のリードにより、参加者全員で校歌を斉唱し、大きな拍手の中、出席の方々を見送りながら、祝賀会は散会となった。会場の出口では、記念品として、校章をあしらった携帯用の箸のセットが配られ、すべてのプログラムが終了し、東京歯科大学歯科衛生士専門学校の次の新たな10年への歩みが始まった。



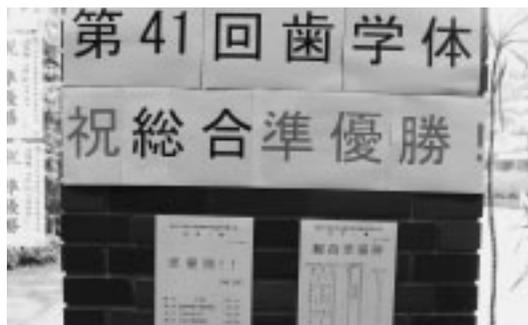
記念祝賀会終了後、下野学校長と中井同窓会会長を囲んでの、60周年記念式典・企画運営担当メンバーの集合写真：平成21年9月12日(土)、ホテルニューオータニ幕張、鶴の間

第41回歯学体夏期部門開催

平成21年7月19日～8月10日

総合成績は輝く準優勝

第41回全日本歯科学生総合体育大会夏期部門が、明海大学歯学部事務主管により埼玉県を中心に開催された。



輝く準優勝の掲示(学生課・教務課前)

本学からは、18部門、約376名の学生が参加して熱戦を繰り広げた。各部健闘の結果、昨年の3位を上回り総合準優勝となった。

バトミントン部門 悲願の総合優勝

バトミントン部門は、埼玉県・熊谷スポーツ文化公園で開催された。27大学から586名が参加、本学からも17名の学生が参加して、8月3日(月)～8月5日(水)まで熱戦を繰り広げた。男子ダブルスで、三邊正樹君(4年)、片野 壮君(2年)が準優勝の好成績を収め、男子団体を準優勝に押し上げた。女子は、永田 彩さん(衛2年)、鈴木春菜さん(衛1年)が、ダブルスで優勝、鈴木さんはシングルスでも

準優勝し、女子団体3位の原動力となった。

バトミントン部主将 三邊正樹(4年)

数々のご支援ご指導を頂いたOBの先生・先輩のみなさんありがとうございました。昨年のデンタル後、「来年こそ、総合優勝」と目標を定め、1年間練習に励んできました。部員の気持ちが一になった結果、うれしい総合優勝となりました。それ以上に、各部員が「相手を思いやる」雰囲気の中で活動できたことが何よりの財産となりました。



バトミントン部門 悲願の総合優勝を果たし、賞状とカップを手に笑顔がほころぶ！：平成21年8月7日(金) 熊谷ドーム

スキー部(冬期部門)総合2連覇達成

スキー部門は、群馬県・尾瀬岩鞍スキー場で22大学181名が参加、本学からも13名の学生が真っ白なゲレンデを疾走した。大会期間は、3月16日(月)～20日(金)。連覇の重圧がかかる中、男女とも好成績を連発した。女子は、岡本江理奈さん(5年)が個人戦2種目で3位に入賞、藪下雅子さん(4年)は個人戦2位入賞を果たし、女子団体優勝を牽引する。男子は、木村翔馬君(3年)が個人戦3冠2連覇の快挙を達成した。山根茂樹君(6年)



スキー部門 閉会式終了後、総合優勝の喜びを分かち合う：平成21年3月20日(金) 群馬県・岩鞍スキー場

赤塚公仁君(5年)も上位入賞を果たし、男子団体準優勝に導く。男女とも厳しい練習を乗り越えて、最大の目標であった総合優勝連覇を成し遂げた。

スキー部主将 藪下雅子(4年)

3月16日～3月20日まで、群馬県尾瀬岩鞍スキー場で大会が開催された。今年は、2連覇をかけての大事な大会であった。部員の意気込みは強く、陸上トレーニングも昨年以上に積んで大会へ向けての調整は完璧だった。全部員が一丸となり、見事総合優勝2連覇という輝く栄冠を掴むことが出来た。大学の先生、OB・OGの先生、応援本当にありがとうございました。

陸上競技部門 総合準優勝

8月6日(木)新潟県東北電力スタジアムワンフィールドは、晴天に包まれた。19大学179名が参加して開催された。昨年の覇者、連覇を目指して本学から、23名がエントリーした。男女とも連覇というプレッシャーがかかった大舞台であったが各種目で着実に上位に食い込む大健闘を見せた。女子では、昨年、最優秀選手賞を受賞した多田恵子さん(4年)が、圧勝で4冠の快挙を達成する。彗星のごとく現れた鈴木貴子さん(1年)は、4種目で上位入賞。男子も、練習で鍛えたすべてを発揮し多くの上位入賞を果たし総合準優勝をつかみ取った。



陸上競技部門 黒い弾丸、ゴールまで全力疾走(ゼッケン26番木村君)：平成21年8月6日(木) 新潟県・東北電力スタジアムワンフィールド

陸上競技部 鈴木貴子(1年)

私は、8月6日から新潟で行われた歯学体に初めて出場しました。歯学部だけとは思えないほど活気があり圧倒されましたが、先生や仲間の応援があり、最後まで自分の役割を果たせたと思います。

出場した4種目すべてのレースがとても印象的で、たくさんの人との心のつながりを感じた一日でした。「全員で支え合い、力を合わせて」来年こそは絶対総合優勝したいです。

硬式庭球部門 総合準優勝

昨年に続き、相性の良い地元の千葉県長生郡白子町で29大学391名の中、本学から19名が参加して、海にほど近いコートで潮風と照りつける太陽の下、多くの熱戦を繰り広げた。昨年の男女完全優勝に奢ることなく日々厳しい練習を積み重ねてきたが、惜しくも今年は準優勝の成績となった。



硬式庭球部門 エースを狙い、力強いサーブを打つ！：平成21年8月5日（水）千葉県白子町テニスコート

剣道部門 総合準優勝

剣道部主将 石田圭太(5年)

今年の歯学体は、今までとは大きく違った大会となった。それは、メンバーの7割以上が5・6年生という高学年メンバーということである。特に私は、主将という立場でありながらほとんど練習に参加することが出来なかった。その間チームを引っ張ってくれたのが2年生の後輩たちと、昨年引退した6年生であった。

現在は、6年生6名、5年生1名、2年生3名、1年生2名で部員構成されており、十分な練習をすることは困難であった。本来、部活の中心をなす3、4年生が不在で国家試験を控えた6年生と1、2年生が中心となって部を引っ張らなければならない中途半端な状態であったが、それでもこの大きなハンディキャップをはねのけて、団体戦準優勝、男子二段以上の部個人戦優勝、女子個人戦準優勝という結果を残せたのは、1~6年生誰一人欠けてもなし得なかった、結束力と全員剣道のたまものだ。

最後に、陰ながら我々を支えてくださった山根源之部長、忍足師範をはじめ多くのOBの先生、学生課の皆さん、本当にありがとうございました。



剣道部門 剣道部員と部員達を支えた関係者で記念撮影：平成21年8月9日（日）埼玉県立武道館

各クラブ・選手が活躍

その他では、硬式野球部門が昨年と同じく3位となった。ヨット部門は、各選手の頑張りも届かず、昨年より順位を一つ落としての3位。少林寺拳法部門が日頃の鍛錬を發揮して大健闘の3位という成績を収めた。

また、個人戦で活躍をした選手を一部ここで紹介したい。以下、陸上部門の常勝メンバーの成績は、増田隆雄君(6年)が走り幅跳び、110mハードルで優勝。女子では、多田恵子さん(4年)が4×100mリレー、400m、800m、3000mで優勝、無敵の4冠を達成。ソフトテニス部門では、池田朋子さん(4年)・大山陽子(4年)組が、成熟したコンビプレーで女子個人戦ダブルスで4連覇を果たした。

ヨット部主将 加藤真麻(4年)

ヨット部門は、8月1・2日に愛知県蒲郡で行なわれました。ヨットは、身体能力だけではなく、



ヨット部門 満面の笑みで！加藤・宮本ペア個人戦6位入賞：平成21年8月2日（日）愛知県・海陽ヨットハーバー

風や潮の流れを読む頭脳、他艇との駆け引きの強さなどを必要とするきわめて総合的なスポーツであり、King of Sportと言われています。そんな魅力にのめり込んでしまった部員が、一丸となって練習に励んでできました。大会当日は雨が降り、冷夏のため凍えながらのレースでしたが、加藤・宮本ペアが個人6位、総合3位入賞を果たし練習の成果を十分に発揮することが出来ました。支えてくれたチームメイト、先生方の応援、そして両親に感謝します。

少林寺拳法部 本田健太郎(2年)

歯学体までの練習時間が1週間しか取れなかったにもかかわらず総合成績3位の結果を残すことが出来たのは、鈴木慎二師範をはじめOB・OGのご指導のお陰であります。今後も日々精進を欠かすことなく更なる飛躍のため精進します。



少林寺拳法部門 気合充実、迫真の演武を魅せた本田健太郎君(2年):平成21年7月19日(日)新潟県・少林寺拳法連盟研修センター

来年は徳島が舞台に

平成22年度の第42回大会は徳島大学歯学部 of 事務主管により、徳島県を中心に開催される予定である。

第41回歯学体総合成績(入賞以上)

- 優勝 愛知学院大学歯学部
- 準優勝 東京歯科大学
- 3位 日本大学歯学部
- 4位 大阪歯科大学
- 5位 日本大学松戸歯学部
- 6位 鶴見大学歯学部

第41回歯学体入賞部門 順位

- バドミントン部門 優勝

スキー部門	優勝
硬式庭球部門	準優勝
剣道部門	準優勝
陸上競技部門	準優勝
硬式野球部門	3位
ヨット部門	3位
少林寺拳法部門	3位
サッカー部門	4位
水泳部門	5位
バレーボール部門	6位
軟式庭球部門(ソフトテニス)	6位
弓道部門	7位
卓球部門	8位

長嶺優樹 歯学体評議委員(3年)

今年のデンタルは、他大学で発症した新型インフルエンザの影響ですべての部門で開催が危ぶまれたが、事務主管校の明海大学歯学部をはじめたくさんの大学の協力を得て開催することが出来ました。自分の所属する陸上部は、総合連覇を目指しておりましたが、今年は惜しくも2位という結果でした。しかし、東京歯科大学全体では、去年の3位より一つ順位を上げて総合2位という結果でした。これは、春からの新入部員を含めた全員が、限られた時間での練習及び夏合宿を通してチームワークの強化、個人レベルアップを目標にして一人一人が努力した結果だと思えます。また、デンタルとはただ単に競技を競うものではなく、他校と交流することで人間関係を築く場となり、視野も広がります。デンタルを一つ終えるごとに人としても一回り成長できていると思えます。今後も、先輩方が築いてきた伝統を守り、頑張りたいと思えます。



準優勝の賞状とカップを手に。歯学体評議委員の長嶺優樹君(3年)、井上高暢君(1年):平成21年8月12日(水)川越プリンスホテル

歯学体スナップ



硬式野球部門 奥羽大学歯学部戦。1回表、大量の10得点を奪い快勝！：平成21年8月2日(日) 立川公園野球場



卓球部門 集中力を高めて、渾身のサーブ：平成21年8月3日(月) 千葉ポートアリーナ



ソフトテニス部門 閉会式を終え、記念撮影。池田朋子・大山陽子ペア、笑顔の4連覇：平成21年8月4日(火) 熊谷ドーム



水泳部門 競技直前、円陣で気合を注入！：平成21年8月9日(日) 福岡県・博多の森アクション



バレーボール部門 ブロックを突き破る、強カスパイク！：平成21年8月7日(金) 所沢市民体育館



バスケット部門 予選リーグの大きな壁を破りベスト16の笑顔：平成21年8月6日(木) 埼玉県・深谷ピクチャーコート



弓道部門 息を呑むほど見事な射形での的を射る：平成21年8月3日(月) 埼玉県立武道館



ボウリング部門 見事なストライク：平成21年8月4日(火) 品川プリンスボウリングセンター

准教授就任のご挨拶



市川総合病院

内科学講座

津 坂 憲 政

このたび、平成21年9月1日付けをもちまして、東京歯科大学市川総合病院内科准教授を拝命いたしました。専門はリウマチ・膠原病内科学です。私は昭和63年に慶應義塾大学医学部を卒業後、同リウマチ内科に入局し、米国留学の後に平成8年より埼玉医科大学総合医療センター、リウマチ・膠原病内科で勤務してまいりました。膠原病には関節リウマチ(RA)や全身性エリテマトーデス(SLE)、シェーグレン症候群といった全身性の自己免疫疾患が含まれますが、そのなかでもとくにRAの治療に関しては、近年TNF やIL-6などの炎症性サイトカインやCTLA-4などの細胞表面マーカーを標的とした生物学的製剤が開発・使用されるようになり、既存の治療では不可能であっ

た関節破壊の防止と修復も可能であることが既に世界的に確認され、RA治療は飛躍的に進展を見せております。また、RA以外の膠原病の病態、とくに膠原病に合併する重篤な急速進行性間質性肺炎に対するシクロスポリンA療法やシクロフォスファミド大量点滴静注療法等の画期的治療法もその有効性が確立されつつあります。さらにシェーグレン症候群につきましても新薬の有効性が実証されつつあり、今後は市川総合病院でもこれら新規治療法をリウマチ・膠原病の臨床の場に積極的に導入することで、とくにRAにつきましては寛解を目標とする高度な治療を行ってまいりたいと思っております。また研究面におきましては、これまで続けてきた生物学的製剤の薬功予測、RA関連新規タンパク同定、あるいはSLEにおけるTCR 鎖発現検討の研究等も含めてさらに発展させてまいりたいと思っております。さらに、将来のリウマチ・膠原病内科診療あるいは研究を担っていただくためにも若い世代、ことに研修医の教育にも力を注いでまいる所存ですのでご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

学内ニュース

大学院春期ベーシックセミナー開催

平成21年度大学院春期ベーシックセミナーが、平成21年6月30日(火)~7月2日(木)、7月7日(火)~9日(木)に開催された。このベーシックセミナーは、主に大学院1、2年次生を対象とし、基本的な



研究機器について説明を受ける受講者：平成21年7月8日(水)、基礎歯学実習室

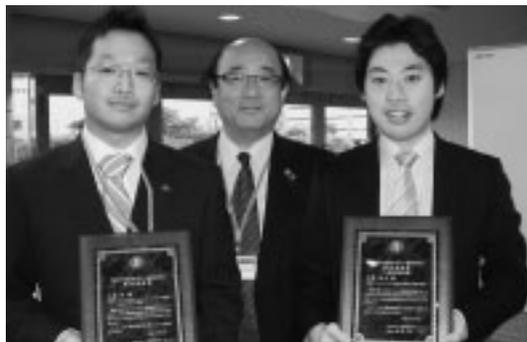
研究機器の使用法の修得を目的として、口腔科学研究センターや関連講座の協力を得て平成12年度より開催されているセミナーである。細胞形態学、分子細胞生物学、分析生物学の研究機器の使用に関しレクチャーを受けた。研究生活をスタートさせたばかりの大学院生にとって、実際にどんな研究機器があり、自分の研究にどう活用できるのかを体験した貴重なセミナーとなった。

三島 功大学院生と大野浩之医局員が

日本スポーツ歯科医学会研究奨励賞を受賞

平成21年7月4日(土)5日(日)にさいたま・大宮市の大宮ソニックシティにおいて開催された第20回日本スポーツ歯科医学会において、本学スポーツ歯学研究室の三島 功大学院生が研究テーマ“モーグルおよびアルペンスキーのスポーツ特性と顎口

腔系との関連”で、さらに本年3月まで臨床専門専修科生だった大野浩之医局員が“ウエイトリフティング競技と顎口腔系の状態との関連”で二人とも前回の学術大会で優秀研究発表として研究奨励賞を受賞したが、今大会においても表彰された。これらの2題の研究はともに、運動競技中の咬合接触、噛みしめの状態、発現するタイミング等を把握する事を目的にしたものであり、今回の実験方法を用いれば、様々な競技において咬合がいかなる状況下で関与しているのかを把握でき、今後咬合とスポーツパフォーマンスとの関係についてより詳細に検討する事ができるものと思われる。さらに、一研究として高齢者の咬合と歩行・転倒に関する情報も得られ、健康スポーツ歯学の立場から転倒の予防などについても検討を加えることができるものと考えている。



受賞した三島大学院生(左)と大野医局員(右)、石上教授(中央)

第4回東京歯科大学公開講演会開催

平成21年7月4日(土)午後2時より、第4回東京歯科大学公開講演会が、昨年と同様に、地元千葉市美浜区真砂の関係団体(真砂地区コミュニティづくり懇談会、千葉市社会福祉協議会真砂地区部会、千葉市第31地区町内自治会連絡協議会)との共催で、本学講堂において開催された。

当日は、内山健志広報・公開講座部長の司会進行のもと、共催団体を代表して成田英雄会長よりご挨拶をいただき、次の二講演が行われた。

講演 『健やかな健康は歯周病予防から』

歯周病学講座 山田 了 教授

講演 『菌を極める』

- 健康を保つための口腔細菌のコントロール - 』

微生物学講座 石原和幸 教授

講演 は、歯周病が誤嚥性肺炎や糖尿病などの

全身疾患に大きく関与し、口腔局所の疾患であるとともに全身疾患にも悪影響を及ぼす病気であることをお話された。また、DVDを使用して、より豊かで快適な人生を送るため早期の歯周病の治療と予防の重要性について解説された。

講演 では、口腔細菌が人体にどのような影響を与えるか、それに対して口腔細菌の観点から、全身の健康を維持するためにはどのようにしたら良いのか、わかりやすく話された。講演の中では、問題となっている新型インフルエンザと口腔ケアとの関係にも触れられ、適切な口腔清掃の必要性を説明された。

235名の参加者を集めた本講演会は、みな熱心に受講しており、それぞれの講演終了後には予定時間をオーバーするほど活発な質疑応答が行われ、参加者一同は大変満足した様子で午後4時30分、盛会のうちに終了した。また、講演後に寄せられたアンケートからは「大変興味深い講演内容でとても勉強になった」、「このような公開講演会を継続して実施してほしい」など、多数の好評なご意見を得ることができた。



講演する山田教授：平成21年7月4日(土)、千葉校舎講堂



講演する石原教授：平成21年7月4日(土)、千葉校舎講堂

平成21年度水道橋病院・市川総合病院合同臨床研修歯科医OSCE開催

平成21年7月4日(土)午後1時より、水道橋病院にて臨床研修歯科医を対象としたOSCE(客観的臨床能力試験)が開催された。このOSCEも今回で13回目を迎え、水道橋病院19名・市川総合病院6名・東京都保健医療公社豊島病院1名・東京都立府中病院1名・東京都健康長寿医療センター1名の計28名の臨床研修歯科医が受験者として参加した。

今回は院内に4箇所のステーションを設置し、説明系課題3課題、技能系課題1課題の4課題を実施した。受験者は臨床研修を開始して3ヶ月を経過したところだが、これまでの研修の成果と知識を総動員して各課題に取り組んだ。また、課題ごとに評価者・模擬患者等から評価を受け、その集計結果をもとに後日総評を行った。

水道橋病院では、今後も種々の見直しを図りながら、OSCEを継続的に開催することにより、臨床研修の更なる充実を図りたいと考えている。



課題に取り組む受験者：平成21年7月4日(土) 水道橋病院総合歯科診療室



フィードバックを受ける受験者：平成21年7月4日(土) 水道橋病院総合歯科診療室

第290回大学院セミナー開催

平成21年7月8日(水)午後6時より千葉校舎第1教室において、第290回大学院セミナーが開催された。今回は広島大学大学院医歯薬学総合研究科先進医療開発科学講座歯周病態学分野 栗原英見教授を講師にお迎えして「新規の歯周組織再生治療法の開発」と題する講演を伺った。

お話の中で、歯周病の特徴は、開放創で、かつ硬組織と軟組織の結合の再構築が必要であり、現在までに、骨補填材移植、GTR法、エムドゲイン、サイトカイン療法(BMP、FGF、PDGF、BDNFなど)、細胞治療などが試みられているが十分な成果が得られていないことから、まず、サイトカイン療法の中でも広島大学にて開発中のBDNF(脳由来神経栄養因子)による歯周組織再生メカニズムを話された。サイトカイン療法は、歯周組織欠損周囲の内在している細胞の量と機能に依存した方法であるものの、BDNFの利用価値の高さについて、in vivo, in vitro の両面から多くの実験結果を示され概説された。続いて、骨髄間葉系幹細胞移植による歯周組織再生の臨床研究について話された。細胞治療は、組織再生能力のある幹細胞を直接移植することによって、歯周組織再生療法の適応症を拡大しようとするもので、すでに広島大学病院では臨床応用の段階にすすみ、大変将来期待される治療法であると説かれた。講演の終了後、多くの質疑がなされ、大変内容の濃い有意義な1時間半のセミナーであった。



講演される栗原教授：平成21年7月8日(水) 千葉校舎第1教室

東京歯科大学千葉病院医療連携講演会開催

平成21年7月16日(木) 午後4時より講堂において「東京歯科大学千葉病院医療連携講演会」が開催された。本会は、千葉県歯科医師会の協力の

もと、地域の診療所と千葉病院との連携強化を目的として開催し、今年で5回目を迎えるものである。内容は午後4時からの「講演会」部門、午後6時30分からの「懇談会」部門の2部構成となっている。

講演会の演題は、毎年、千葉県歯科医師会および近隣歯科医師会からの代表委員と千葉病院内の医療連携委員で構成されている医療連携協議会で決定している。本年は参加者からの要望に応じ、医療連携に関するもののほか、「医療にかかる安全管理のための研修」も兼ねて実施した。

今年度の演題および演者は以下の通り。

1. 「根管治療における難治症例とその対応」
歯科保存学講座 教授 中川寛一
2. 「異常出血とその対策」
口腔外科学講座 助教 高木 亮
3. 「歯科金属アレルギー検査」
臨床検査学研究室 准教授 松坂賢一
4. 「医療計画・医療連携・連携パス
～歯科医療の拡大のため～」
社会歯科学研究室 教授 石井拓男
5. 「安全性の高いマウスガードの製作法」
スポーツ歯学研究室 准教授 武田友孝
6. 「歯科診療所での感染予防対策の基本」
口腔外科学講座 准教授 片倉 朗

当日は150名以上の参加者を迎え、石井拓男千葉病院長ならびに高野伸夫医療連携委員長の挨拶から講演会が始まった。各演題20分前後の講演が行われ、演題発表後の質疑応答時には活発な意見が交換された。並行して、参加者からの症例相談に応じる症例相談コーナーを設け、各症例に対し医療連携協議会委員が対応した。

引き続き、厚生棟1階の食堂にて午後6時30分

から懇談会が開始され、高野医療連携委員長および浅野薫之千葉県歯科医師会会長の挨拶が行われ、藤本俊男千葉県歯科医師会長の発声のもと乾杯を行った。懇談会にも100名を越す参加者があり、医療連携・症例相談等各話題について歓談が続いたが、午後8時に名残惜しい雰囲気の中散会し、医療連携講演会は無事終了した。

第291回大学院セミナー開催

平成21年7月17日(金)午後6時より千葉校舎第2教室において、第291回大学院セミナーが開催された。今回はアメリカ国立衛生研究所・NIDCRのsection chiefであるDr. Indu S. Ambudkar先生を講師にお迎えして、「Function and regulation of TRPC1 in salivary gland fluid secretion」と題する講演を伺った。

Ambudkar先生は、細胞生理機能に重要な役割を果たしているカルシウムイオン(Ca²⁺)の唾液腺細胞内の動態と唾液分泌機能との関係を永く研究されており、今回は、細胞内へのCa²⁺流入を担うTransient Receptor Potential (TRP)チャネルの受容体刺激によって活性化されるTRPCの分子機構について講演された。その中でTRPCファミリーのTRPC1が唾液腺細胞膜に局在し、唾液腺細胞内Ca²⁺貯蔵庫からのCa²⁺枯渇に共役した細胞外から細胞内へのCa²⁺流入(store-operated calcium entry: SOCE)を担うチャネルとして機能しており、このTRPC1が唾液分泌には非常に重要であること、また、新たに唾液腺細胞で同定されたSOCチャネルタンパク質であるOrai1とSTIM1のTRPC1との相互作用や、TRPCファミリーの多彩な生理機能の調節機構などについてもわかりやすく講演していただいた。今後の唾液腺、唾液分泌研究の参考になる大変有意義なセミナーであった。



講演会の様子：平成21年7月16日(木)、千葉校舎講堂



講演されるAmbudkar先生：平成21年7月17日(金)、千葉校舎第2教室

禁煙啓発講演会の開催

千葉キャンパスでは、9月1日からの指定喫煙場所を除いた原則敷地内禁煙の実施に先だって、千葉校舎教職員を対象として7月21日(火)午後5時30分から第1教室において禁煙啓発講演会を開催した。講師には、本学出身で現在、野村證券健康管理センター歯科責任者である谷口 誠先生をお迎えし、「受動喫煙について ~たばこからの解放~」と題して約50分間の講演が行われた。

講演会は、松久保 隆環境安全管理部長の司会により進行し、まず始めに薬師寺 仁副学長から挨拶と禁煙啓発講演会開催の趣旨について説明があった。続いて、谷口先生の講演となり、受動喫煙による健康への影響について詳しい説明がなされ、また受動喫煙の対策や禁煙の効能についても大変分かりやすくお話をしていただいた。

この講演会には、58名の千葉校舎教職員の参加があり、喫煙者も非喫煙者もそれぞれが受動喫煙と禁煙を考えさせられる大変有意義な会となった。

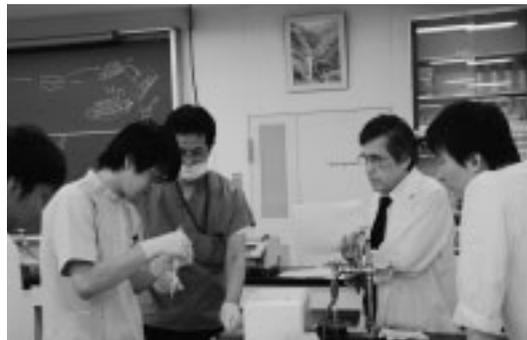


講演をされる谷口先生：平成21年7月21日(火) 千葉校舎第1教室

大学院夏期ベーシックセミナー開催

大学院春期ベーシックセミナーに引き続き、大学院夏期ベーシックセミナーが2回にわたり開催された。本ベーシックセミナーは大学院1、2年次生を対象として、基本的な研究技術の修得を目標として開催している。第1回目として平成21年7月13日(月) 14日(火)に衛生学講座の松久保 隆教授、杉原直樹講師による「生物統計学入門講座」、続いて第2回目として平成21年7月21日(火)~23日(木)に法歯学講座水口 清教授を中心に「遺伝子操作の基本手技」が開講された。「生物統計学入門講座」ではノートPCを使用し、基礎統計やデータの統計分析方法等についての講義が実施さ

れた。「遺伝子操作の基本手技」では遺伝子クローニング手法及びRNAの抽出とRT-PCRをテーマに実習形式のセミナーが実施された。昨年に引き続き再度履修している学生の受講もあり、研究生活において必須項目であることが窺われる貴重なセミナーとなった。



遺伝子操作の基本手技の実習風景：平成21年7月21日(火) 基礎歯学実習室

平成21年度 歴代学長・役職者の墓参

例年、夏季期間に行なわれている歴代学長・役職者の墓参は、金子 讓学長、吉峯規雄大学事務部長をはじめとする大学職員により下記の日程で執り行われた。

今回は、昨年6月22日(月)にご逝去された本学前理事長である井上 裕先生のお墓(印旛霊園)へ金子学長がお参りをされ、往時を偲ばれた。

7月22日(水)

血脇守之助	先生	松戸市「八柱霊園」
花澤 鼎	先生	松戸市「八柱霊園」
福島 秀策	先生	松戸市「八柱霊園」
鹿島 俊雄	先生	市川市「市川霊園」
井上 裕	先生	印旛郡「印旛霊園」



故 井上 裕先生の墓参を行う金子学長：平成21年7月22日(水) 印旛郡「印旛霊園」

7月24日(金)

高山 紀齋 先生 杉並区「文殊院」
 奥村 鶴吉 先生 東村山市「小平霊園」
 杉山 不二 先生 府中市「多磨霊園」
 松宮 誠一 先生 府中市「多磨霊園」
 高木圭二郎 先生 新宿区「真英寺」

7月27日(月)

関根 弘 先生 横浜市「東戸塚霊園」

7月30日(木)

関根 永滋 先生 栃木県藤岡町「慈福院」

市川秀樹大学院生 Poster Awardを受賞

平成21年7月23日(木)~25(土)に行われた The 11th International Symposium on Exocrine Secretion (徳島大学長井記念ホール、徳島)において生理学講座の市川秀樹大学院生(社会人)が「Electrophysiological properties of AQP6 in mouse parotid acinar cells」の演題でPoster Awardを受賞した。

本ポスター賞は発表内容に新規性があり、プレゼンテーションと研究成果の内容が極めて優れている発表者に贈られる賞であり、今回はトップでの受賞であった。学会ポスター会場では、市川大学院生の発表に多くの海外研究者が群がり、Rochester大学のMelvin教授やNational Institute of Dental and Craniofacial ResearchのDr. Ambudkarなどと大議論する一幕もあった。今後、市川大学院生は本成果を論文にまとめる予定であり、今後の活躍とともに大きな成果に期待したい。

AQP: Aquaporinは主に水を透過させるチャンネルであり、現在まで13種類が確認されているが、唾液分泌にも大きく関与していると考えられている。特にAQP6は水のみならず電解質の透過性を有することが報告されている。市川大学院生は耳



授賞した市川大学院生

下腺腺房細胞でwhole-cell voltage-clamp法を用いた電気生理学的特性の検討とRT-PCR、western blotting法でのAQP6 mRNA、AQP6 protein発現の検討、免疫組織学的染色での同チャンネルの局在性の検討を発表し注目された。

千葉校舎事務職員伝達講習会の開催

千葉校舎では、事務職員の業務に対する知識を深めることを目的として、主に学外研修に参加した事務職員が、研修の内容を他の職員に伝達する講習会を、7月23日(木)午後5時30分から第2・第3セミナー室において開催した。

第1回目となる今回の伝達講習会では、6月27日(土)に私立大学連盟主催により関西大学千里山キャンパスにて開催された私立大学フォーラム「職員のプロデュース力」に参加した大学庶務課の狩野龍二庶務係長と企画・調査室の江波戸達也企画・調査係長の2名が伝達講師として発表を行った。

講習会ではドーナツが配られるなどとてもアットホームな雰囲気の中、発表者各々が、私立大学フォーラム「職員のプロデュース力」で得た知識を参加者に伝播したり、それを基に発展させたこれからの職員像を提案するなどとても有意義な講習会となった。

この会には、千葉校舎の事務系職員等24名が参加し、第1回千葉校舎事務職員伝達講習会は盛会のうちに終了した。



伝達講習会の様子：平成21年7月23日(木) 千葉校舎第2・第3セミナー室

第292回大学院セミナー開催

平成21年7月23日(木)午後6時より千葉校舎第2教室において、第292回大学院セミナーが開催された。今回は東北大学大学院歯学研究科 口腔修復学講座歯科生体材料学分野の高田雄京准教授に

「磁性アタッチメントの構造と特性」と題する講演を伺った。

磁性アタッチメントは、現在では臨床で最も多く用いられるアタッチメントの一つであり、義歯の維持時装置だけでなく、エビテーゼやインプラントの上部構造維持にも幅広く利用されている。歯科臨床には磁石構造体が小さく薄い形状、大きな吸引力、そして高耐食性が求められる。これらを実現した背景には、高度な技術に裏打ちされた精密な構造とそれを支える磁性材料があり、国産および海外製の磁性アタッチメントの特徴を解説された。また、磁性アタッチメントに特化した磁性ステンレス鋼の磁気特性や耐食性、磁性アタッチメントが口腔内で遭遇する異種金属接触腐食に対する安全な歯科用合金の選択についても解説された。研究と臨床のいずれにも有意義なセミナーであった。



講演される高田准教授：平成21年7月23日（木）、千葉校舎第2教室

平成21年度教育ワークショップ報告会開催

平成21年7月24日（金）午後4時より千葉校舎教養棟第5教室において、平成21年度教育ワークショップ（報告会）が開催された。今年度は「統合型科目の再構築」「臨床基礎実習の再構築」の2つのテーマとし、金子 譲学長の挨拶で開会し、小田 豊教務部長の司会のもと、作業グループの発表及び討議がシンポジウム形式で行われた。

「統合型科目の再構築」については、生理学講座の田崎雅和教授、「臨床基礎実習の再構築」については、歯科麻酔学講座の一戸達也教授を委員長とするワーキンググループで昨年12月から検討を重ねてきた結果についておよそ1時間半ずつの発表および質疑応答が行われた。

「統合型科目の再構築」については、現在実施し

ている統合型科目の内容と評価の見直し、関連する分野を中心とした系統科目の在り方・統合を見据え、これからの歯科医学教育に求められる内容としての充実を図ることについて報告があった。まず、統合型科目に関し、講義内容の整合性・連続性の不十分な点について、より多くの知識を求められる歯科医学教育の現状に対応するため議論を重ねた旨説明があった。

次に改善策として、再構築を必要とする統合型科目に関しては来年度から導入するべく各統合型科目のGIOとSBOsをはっきりし、改善点に対しての対応策を提示することの事を短期的目標として示した。そして、中・長期的目標として統合型科目の教育効果を評価しながら順次統合型科目を増やしていく方向性を提案した。さらに長期的目標として、統合型科目の教育内容をコーディネートする優れた人材を育成するとともに、系統型講義も含め統合型講義をも一人で教育できるようなスーパーティーチャーの育成の必要性について発表があった。

「臨床基礎実習の再構築」については、臨床基礎実習から臨床実習、臨床研修へと技能・態度領域の修得レベルを高めていくにあたっては、各時期における学習目標の整合性とステップアップが十分に図られていることが重要であり合理的かつ効率的に応用能力が養成されていく必要がある旨報告があった。

まず、臨床基礎実習に関し 専門知識の統合を基盤とした統合型臨床基礎実習のあり方 総合的な診療計画立案能力の養成のための臨床基礎実習

臨床基礎実習の実効性を高め、より効率よく技能を修得するための新しい方略を検討した旨説明があった。そして、「総合診療計画の立案」、「臨床推論力の養成」、「一口腔単位の治療」などをキーワードとした新しい臨床基礎実習のあり方を検討した旨報告し、もう一つのテーマである「統合型科目の再構築」と統合型カリキュラムのふたつの柱として、統合型講義と基礎科目実習の一部をも組み込んだ統合型臨床基礎実習を開発し、それを補完するための専門科目別講義や臨床基礎実習が行われるのが望ましいと発表があった。

2つのテーマに対し、会場からも多くの質問、意見があり、今後の本学の教育システム、カリキュラム構築・改善に向けて貴重な検討の場となっ

た。今年度はテレビ会議システムを使用し、市川総合病院と水道橋校舎を結び実施したところ、教育職員やティーチング・アシスタント等180名もの参加者が集まった。最後に薬師寺 仁副学長の閉会の辞で締めくくり、午後7時半盛会の内に終了した。



「統合型科目の再構築」発表する中村准教授：平成21年7月24日（金）千葉校舎第5教室



「臨床基礎実習の再構築」質疑応答風景：平成21年7月24日（金）千葉校舎第5教室

入試ガイダンス・オープンキャンパス開催

東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象として、平成21年度入試ガイダンスが平成21年7月25日（土）に午後2時から水道橋校舎血脇記念ホールで開催された。8月22日（土）には午前10時から千葉校舎で開催された。

水道橋校舎にて開催されたガイダンスでは、液晶プロジェクター・ビデオ等を用いて、東京歯科大学の歴史・教育理念や教育カリキュラム、国家試験合格状況、卒後進路状況、口腔科学研究センター、三病院の紹介、平成17年度文部科学省より選定を受けた特色GP、現代GPの概要等について紹介し、平成22年度入学試験の概要について説明した。その後、水道橋教職員の案内により病院見学を行い、希望者については教務部・学生部の教

職員との個別面談を実施した。当日は94名の参加があり、個別面談希望者の行列ができるなど本学の情報を得ようという熱気に溢れ大盛況なガイダンスとなった。

千葉校舎にて開催したガイダンスは、昨年に引き続き夏休み期間に実施した。当日は148名もの参加者を集め、先に行われた水道橋の入試ガイダンスと同様に大盛況であった。午前中は、松久保 隆教授を中心とした衛生学講座の協力によりカリエスリスク評価実習を実施した。実習にも使用した歯ブラシ、フッ化物配合歯磨剤、歯垢顕示剤とシュガーレスガムが参加者にプレゼントされた。昼休みには、2グループに分かれて第1食堂にて学食体験と第1教室でのCBT体験が交互に行われた。午後からは歯周病学講座の澁川義宏准教授による「健やかな生活は歯周病予防から」、微生物学講座の石原和幸教授による「口腔内細菌の病原性」と題した二つの模擬授業が行われた。口腔衛生の重要性を改めて認識した体験実習、その実習に関連した模擬授業など、大学で学ぶ歯科医学専門科目に関する内容を体験し、参加者からは、「歴史を感じさせられ感動しました。このキャンパスで学び、歯科医師になりたいと思った」、「単なる説明会だけでなく、実習やCBT、学食、授業までも体験することができ、とても有意義だった」などの感想が寄せられた。その後、平成22年度入試についての説明があり、入試科目のポイントについて、望月隆二教務副部長から解説があった。続いて、大学の特色・カリキュラム等の紹介、学生生活等についての説明の後、学内見学を行い、希望者には個別相談を実施した。学内見学では、臨床基礎実習室、解剖標本室、図書館、千葉病院などを回り、本学の貴重な標本、充実した設備等を示した。



模擬授業風景：平成21年8月22日（土）千葉校舎第1教室

今後のガイダンスは、11月1日(日)に千葉校舎(東歯祭開催中)で、12月6日(日)に水道橋校舎で、実施する予定である。

水道橋移転計画に関する説明会開催

平成21年7月25日(土)午後4時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにおいて、「移転計画に関する説明会」が開催された。

熱田俊之助理事長の出席の下、「水道橋移転計画」について、金子 譲学長、株式会社日本設計より移転に係る基本計画、校地・校舎の概要、建設フレーム案そして今後の移転スケジュール予定などが順次説明され、約170名の参加者が説明に熱心に耳を傾けた。

説明会終了後、TDCビル13階にて懇親会が開かれた。当日は、都心の夜景とともに隅田川の花火も望め、各人が将来の水道橋校舎に思いを馳せた中で盛会裏に終了した。



説明をする金子学長：平成21年7月25日(土) 水道橋校舎血脇記念ホール



説明を熱心に聴く出席者：平成21年7月25日(土) 水道橋校舎血脇記念ホール

平成21年度第3回水道橋病院教職員研修会開催

平成21年7月27日(月)午後5時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにおいて、平成21年度第3

回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は学術・教養に関する研修として、内科 仁科牧子准教授および総合歯科 細川壮平助教による「睡眠時無呼吸症候群について」と題した講演があった。

仁科准教授からは「睡眠時無呼吸症候群 - 予防医学の立場から - 」と題して、睡眠時無呼吸症候群の定義、病態、症状並びに合併症などについての概説と、本疾患が発症しやすい体質や発症した場合に併発する障害について詳細な説明があった。さらに、睡眠時無呼吸の検査方法と治療法についても説明が加えられた。本症候群は高血圧、心疾患および脳血管障害などと密接な関連性がある疾患であることを強調された。また、本症候群患者の対応には医科と歯科との連携が重要であることについて説明があった。

これを受け、細川助教は、歯科的な立場からみた本症候群患者の身体的特徴、特に顎顔面の形態との関連性について説明し、その中で気道の狭窄が認められると診断された患者に対して下顎を前方に移動させたり、舌位を前方に移動させるための口腔内装置について解説された。さらに本装置を使用した場合の有効性について、実際に臨床で



講演する仁科准教授：平成21年7月27日(月) 水道橋校舎血脇記念ホール



講演する細川助教：平成21年7月27日(月) 水道橋校舎血脇記念ホール

応用したデータに基づいた解説を付け加えられた。その他、本症候群は生活習慣病、特に肥満と関連性が深いといわれていることから減量の重要性や睡眠中に気道を広げる目的で使用する経鼻的持続陽圧呼吸(n-CPAP)療法の有効性について説明があった。しかし、いずれの対応法も対症療法であり、本症候群患者の治療が困難であること、また医科と歯科との密接な連携が重要であることを強調され、講演を終了した。

講演後、参加者から、水道橋病院各科に睡眠時無呼吸症候群の疑いがある患者が来院した場合の具体的な診断から治療への流れに関して質問があった。この質問に対して、平成16年度の診療報酬改定時に睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置治療が導入され、医科において本症候群と診断され、かつ口腔内装置による治療が有効であると診断された場合、歯科において対応すると説明があった。

睡眠時無呼吸症候群は、近年の研究により解明されてきた新しい分野であることから、参加者は全員熱心に聴講し、大変有意義な研修会となった。

監物 真大学院生 優秀ポスター賞を受賞

平成21年7月29日(水)～7月31日(金)に札幌市・ロイトン札幌で開催された第20回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会において臨床検査学研究室の監物 真大学院生は「上下唇に発生した多発性MALTリンパ腫の一例」と題した発表を行い、優秀ポスター賞を受賞した。本賞は学会参加者の投票を集計し選考されたものであり、ポスター発表53演題中2演題に授与された。

口唇に発生したMALTリンパ腫は非常に稀で、世界的にも数例の報告をみるのみである。また、

本症例は最初下唇に発生したが、約2年後、矯正治療におけるブラケット装着後に同様のMALTリンパ腫が上唇に発生したもので、ブラケットによる機械的刺激が誘因となった可能性が考えられた。本研究は今後、歯科界に貢献できるものと評価され受賞となった。

がんプロフェッショナル養成プラン

「口腔がん専門医養成コース」学内セミナー、9大学共同チーム医療ワークショップ開催

8月3日(月)、4日(火)の2日間にわたり、本学大学院の「口腔がん専門医養成コース」に在籍する大学院生に対して「初期研修セミナー」が千葉校舎で開催された。参加者は本コースに在籍する1年次3名、2年次3名、3年次1名の7名である。初めに金子 譲学長から本プロジェクトの社会的使命と大学が期待する成果について、次にコース・コーディネーターの片倉 朗准教授から大学院修了のための要件が説明された。その後、田中陽一教授(市川総合病院臨床検査科病理) 柴原孝彦教授(口腔外科学) 佐藤一道助教(口腔がんセンター) 山内智博講師(口腔がんセンター) 渡辺 裕講師(オーラルメディスン・口腔外科学) 山根源之教授(口腔がんセンター)(以上、講義順)から口腔がんの治療の臨床修練にあたり必要な専門的知識についての集中講義が行われた。2日目の午後は大学院生の進行によりプレゼンテーションのワークショップが行われ、相互に発表方法と内容を評価し合うことで発表力を陶冶した。最後に柳澤孝彰大学院研究科長が総評を行って修了証が渡された。

引き続き中1日空けて6日(木)から9日(日)まで、1年次の3名はクロスウェーブ府中で行われた9大学共同チーム医療ワークショップ(北里大学主管)に参加した。このワークショップではがん医療についての診断と治療・看護・社会医学の各分野からの講義と「医療者間コミュニケーション」「がん患者のメンタル」についてのグループワークとロールプレイが行われた。本学からは片倉准教授が「がん医療における歯科・口腔外科の責務」について講義を行った。またロールプレイでは口腔がんの治療を想定した課題もあり、本学からの参加者はリーダーシップを発揮して積極的に作業、討論に参加した。



授賞した監物大学院生：平成21年7月31日(金) ロイトン札幌

参加した大学院生は、整った環境で集中して新たな知識の吸収と医療者として貴重な体験ができ、知識の習熟のみならず今後の修学のためのモチベーションの向上につながった。



本学でのがんプロ初期研修セミナー：平成21年8月3日(月)、千葉校舎



抗癌剤の誤投与を設定したロールプレイで恫喝する模擬患者に看護師・薬剤師とともに謝罪と説明を行う関根大学院生：平成21年8月8日(土)、クロスウェーブ府中

寺川由比大学院生 日本麻酔科学会学術集会で優秀演題に採択

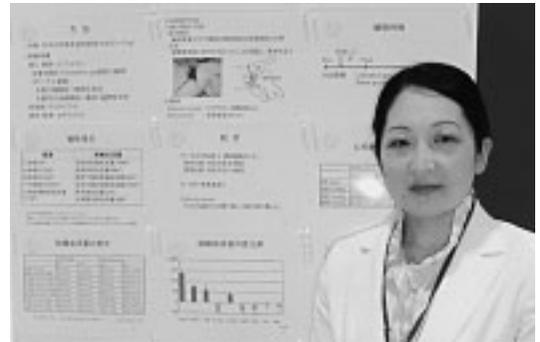
平成21年8月15日(土)～17日(月)に神戸市で第56回日本麻酔科学会学術集会在開催された。日本麻酔科学会学術集会は麻酔分野に関わる医師、歯科医師の参加者が5000名以上を数える国内ではもっとも大きな学会である。歯科麻酔学講座からは、4題の一般演題と1題のシンポジウムでの発表(シンポジスト：一戸達也教授)が行われた。

この中で、寺川由比大学院生の「星状神経節ブロック(SGB)時の組織血流の再分布 - 顔面部と下肢および内臓血流量の比較」と題した演題が優秀演題に採択された。

歯科麻酔学講座では、従来から全身麻酔や薬物投与による組織血流量の変化について研究を行っている。本研究のテーマである星状神経節ブロッ

ク(SGB)は、交感神経遮断により同側頭頸部と上肢の血流量を増加させる。これを応用して神経麻痺や疼痛性疾患の治療が行われている。従来の報告では、施行側の血流量増加は反対側からの血流の再分布によるといわれていたが、その他の部位については明らかにされていなかった。本研究の結果からSGB施行後には反対側だけでなく下肢や内臓からも血流が再分布し、この血流の再分布には内臓よりも末梢組織の影響が大きいことが示唆された。

現在は他の組織についても継続して研究を進めているところである。



受賞した寺川大学院生：平成21年8月16日(日)、神戸ポートピアホテル

第1回臨床研究デザインワークショップ開催

第1回臨床研究デザインワークショップが、平成21年8月29日(土)、午前9時から午後6時まで、千葉校舎の第2教室と5つのセミナー室を使って開催された。

この企画は、臨床研究デザインをテーマとして大学院教育活動を行っている岡山大学医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野の窪木拓男教授以下4名のスタッフの協力により本学大学院教務部が主催した。今回、受講者は本学教員に限定し、25名を5名ずつの5グループに分け、各グループにタスクフォースが1名担当する形でいった。

タスクフォースは岡山大学の窪木教授、松香芳三准教授、水口一助教、荒川光助教、木村彩助教の5名の先生方をお願いした。今回のワークショップは、通常2日のコースを1日に凝縮したため、討論を行いながらの昼食というタイトなスケジュールであった。その内容は、講義と演習を組み合わせしており、講義は臨床研究の全体像、構造化抄録の作成意義と方法、研究デザイン、サンプリ

ングとフォローアップ、概念から変数・変数の測定、結果の解釈、調査研究法、演習はワーキンググループにおける各自の作業と討議であった。参加者からは「研究デザインという新たな概念に接することができ大変有意義であった」という感想が多く聞かれた。今後、この企画の対象を大学院学生にも広げていく予定である。

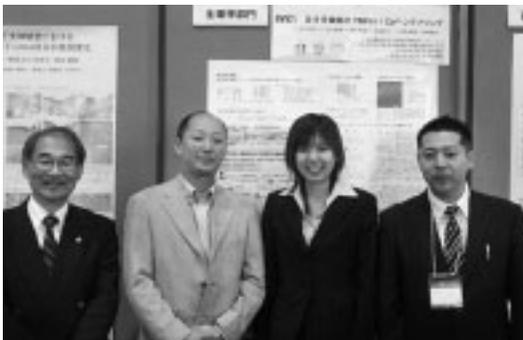


柳澤孝彰大学院研究科長と窪木教授：平成21年8月29日（土）、千葉校舎第2教室

津村麻記 生理学講座受託研究員 Poster Awardを受賞

平成21年9月10日（木）、11日（金）に行われた第51回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会（朱鷺メッセ、新潟）において生理学講座の津村麻記受託研究員が「象牙芽細胞のTRPV1 / Ca²⁺シグナリング」の演題でPoster Awardを受賞した。

本ポスター賞は、解剖学部門、生化学部門、生理学部門、微生物学部門、病理学部門、薬理学部門に分かれており、今回は生理学部門での受賞であった。本賞は、生理学・口腔生理学関連の演題に関して発表内容に新奇性があり、研究内容のストーリー、プレゼンテーションと研究成果の内容が極めて優れている発表者に贈られる賞である。



授賞した津村受託研究員（右から2人目）

今回の研究は、う蝕や歯頸部楔状欠損による象牙細管解放など、歯髄に対する外的刺激によって誘発される歯髄の防御機転としての第3象牙質形成について、象牙芽細胞に発現するTRPV1チャンネルに着目した研究である。津村受託研究員は、歯髄への外的な刺激が、TRPV1チャンネルを介して、象牙芽細胞自らによってその刺激が受容されることで象牙質形成を誘発するであろう事を明らかにした。加えてTRPV1チャンネルは、侵害受容機構にも深く関わる細胞膜タンパク質であり、今後の歯髄痛覚メカニズムの解明にも大きな一歩を記したことになり、今後の活躍が期待された。

第293回大学院セミナー開催

平成21年9月17日（木）午後6時より千葉校舎第2教室において九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座口腔予防科学分野の山下喜久教授を講師にお迎えして「口腔細菌叢の網羅的解析からみた口腔および全身の健康」と題する講演を伺った。

口腔内には700種に達する菌が存在しているため、特定細菌と口腔疾患病態の関わりを解析するのは非常に困難である。セミナーは、これを可能にするためのT-RFLP法の基本原理についてのわかりやすい説明から始まり、歯周炎局所における細菌の網羅的解析データから考えられる歯周炎病因解析結果について解説していただいた。従来までの特定細菌だけの解析に比べ、すべての菌を対象としているため、より信頼性が高く、診断への応用可能な解析結果は注目すべきものであった。さらに誤嚥性肺炎等の病態と細菌との解析にまで話がおよび、大変内容の濃い有意義な1時間半のセミナーであった。



講演される山下教授：平成21年9月17日（木）、千葉校舎第2教室

奥井沙織歯科衛生士 学術論文優秀賞を受賞

平成21年9月19日(土)～21日(月)に大阪府・大阪歯科大学楠葉学舎において開催された日本歯科衛生学会第4回学術大会において、市川総合病院歯科・口腔外科の奥井沙織歯科衛生士が、学術論文優秀賞を受賞した。この賞は、日本歯科衛生学会学術雑誌に前年度掲載された全ての論文が対象であり、論文としての完成度が高く、内容が優れていること。テーマの着眼点が先駆的・萌芽的であること。歯科衛生分野の発展および業務の向上に貢献できる内容である。社会的貢献度が高い論文である。上記の外、総合的な観点から優れているとみとめられる。という5つの選考基準から、優秀であるとの評価をいただき表彰された。論文名は『歯科衛生士による「がん緩和ケア」としての専門的口腔ケアの確立に向けて』であり、第2回学術大会で優秀発表賞を受賞した演題をまとめた論文が、この度受賞の栄に浴した。なお、最優秀論文賞は該当無し、奨励賞は3名であった。

日本歯科衛生学会は、歯科衛生士が中心となり設立された学会であるが、第4回学術大会の演題登録数は144題、当日は1,344名の参加者で盛會に会期を終えた。平成22年度は、千葉市のOVTAで、開催される予定である。



授賞した奥井歯科衛生士(右から2人目):平成21年9月21日(月)、大阪歯科大学楠葉学舎

千葉校舎防災訓練実施

9月18日(金)午後1時30分から千葉校舎において防災訓練が実施された。

今回は、夜間防災訓練、火元責任者の通報訓練、救助袋避難訓練の3つの訓練が実施された。

始めに、あらかじめ選出された当直者や病院勤務者等約20名が参加して夜間防災訓練が行われ

た。夜間に火災が発生したことを想定して、夜間通報訓練、初期消火訓練、患者避難誘導訓練を実施した。今回は、当直者が、模擬患者を実際に背負って避難したり、担架による搬送を行ったりして、本当の災害により近い状況を考慮した避難方法が組み入れられ、緊張感のある訓練となった。

続いて行われた火元責任者の通報訓練では、各教室幹事等の学内における火元責任者約70名が参加し、「地震が発生しました」という訓練放送後、各自、担当地域を点検、被害状況を防災センターへ報告する訓練を行った。火元責任者の自覚と当該意識の向上を目的としたものであるが、各自の役割を改めて確認することができ、有意義な訓練となった。

最後に、病院棟6階給食室前にある救助袋を使用して、救助袋避難訓練を行った。訓練希望者約20名が、6階から伸ばされた救助袋を通して地上まで滑降した。手足の使い方により滑り降りるスピードを調整することができ、訓練参加者の巧みなスピード調整に、時に歓声があがる楽しい体験訓練であった。



救助袋避難訓練に参加する職員:平成21年9月18日(金)千葉病院北側患者駐車場

水道橋病院懇親会開催

平成21年9月25日(金)午後6時より、ホテルメトロポリタンエドモント(飯田橋)において、「平成21年度水道橋病院懇親会」が開催された。本会は、大学機能の水道橋への移転に向けて、本院の教職員が一致団結し、磐石な協力体制を構築する一環として、教職員の交流および意見交換を図ることを目的とし、約100名の教職員等が出席して行われた。

古澤成博口腔健康臨床科学講座幹事による司会のもとに、主催の柿澤卓口腔健康臨床科学講座

主任教授の挨拶、熱田俊之助理事長、金子 譲学長の挨拶に続き、薬師寺 仁副学長の発声により乾杯を行った。参加した教職員は互いに大いに親睦を深め、また、普段交流の少ない各部署の職員が一言ずつスピーチを行うなど、会は終始和やかな雰囲気で行われた。約2時間半後に横石武美教授の挨拶によりお開きとなったが、参加者はなかなか会場を立ち去らず、皆まだまだ会を楽しみたい様子であった。



挨拶する柿澤水道橋病院長：平成21年9月25日（金）ホテルメトロポリタンエドモント



杯を上げる参加者達：平成21年9月25日（金）、ホテルメトロポリタンエドモント

第86回歯科医学教育セミナー開催

平成21年9月28日（月）午後6時より千葉校舎第2教室において、第86回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「歯科医学教育に望むもの」と題し、日本歯科医師会常務理事の江里口 彰先生よりご講演をいただいた。

まず始めに、歯科医学、歯科医療、歯科大学の役割と関連性について、それぞれが本来の目的を再確認し、もっと連携を図っていかなくてはならない事と現状の歯科医療現場で起こっている様々な問題を解決するためにも、今後の歯科界を担う人材を育成する歯科大学の教育が重要である旨述

べられた。

また、これらを実現するためには教育において講座・科目相互の協力、他大学との連携・共有を図れる教育専門職の教職員の必要性について述べ、歯科医療との連携という部分で歯科大学がもっと教育・研修の部分で診療所や歯科病院を活用すべきと説明された。

最後に生涯研修や卒後臨床教育・研修の充実なども含めて、今まで以上に歯科大学と診療所が連携し最初に述べられた歯科医学、歯科医療、歯科大学が三位一体となるのが、今後の歯科界の発展のためにも必要な旨説明された。

当日は110名近い参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



講演される江里口先生：平成21年9月28日（月）、千葉校舎第2教室

平成21年度解剖諸霊位供養法会

平成21年9月29日（火）午後2時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにおいて、平成21年度解剖諸霊位供養法会が執り行われた。

薬師寺 仁副学長はじめ大学幹部、関係教職員、第2学年学部学生、歯科衛生士専門学校学生代表、ご遺族ならびに東京歯科大学白菊会の方々が参列



祭文を奉読する薬師寺副学長：平成21年9月29日（火）水道橋校舎血脇記念ホール

し、歯科医学の教育と研究のため尊いご意志を持って献体戴いた諸霊位に対し感謝の意を捧げ、ご冥福をお祈りした。本学開設以来、4千有余柱の御霊に向かい真珠院 石井道彦導師の誦経に続き、薬師寺副学長が祭文を奉読し、参列者全員の献花が行われた。

続いて、学生を代表して第2学年の星野立樹さんよりご遺族に対して挨拶があり、次に、ご遺族を代表して大多和 祐様よりご挨拶を戴き、本年度の解剖諸霊位供養法会を滞りなく終了した。

その後、ご遺族ならびに大学関係者が文京区小石川の真珠院を墓参し散会した。

平成21年度第4回道橋病院教職員研修会開催

平成21年9月30日(水)午後5時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにおいて、平成21年度第4回道橋病院教職員研修会が開催された。今回は個人情報保護に関する研修会として、「日常業務における情報セキュリティ対策」と題し、リコー販売株式会社首都圏広域事業本部の渡辺洋平氏をお招きしてご講演いただいた。

もし、我々が日常的に利用しているパソコン等から、患者や教職員に関する個人情報が漏洩すれば、当事者としても組織としても一大事であり、場合によっては大きな制裁を受ける可能性もある。それを防ぐためにはどのような注意が必要かという観点から、各自の周辺を見直す必要がある。渡辺氏は、コンピュータやソフトウェアへのパスワードのかけ方として、表面的には無意味な文字列で、数字・英字・特殊記号を8文字以上混在させたものがよいと提言され、これは短時間にあらゆる文字列を当てはめてパスワードを盗もうとする「ブルートフォース攻撃」にも抵抗性があり、

安心であると説明された。更に、パスワードは3ヶ月ごとに更新する必要がある、情報の漏洩をいち早く感知するためには、周囲のデータ、メディア、資料を整理し、万が一紛失しても即座に分かるようにしておくこと、机や本棚の整理、USBメモリの適切な管理・保管が大切であると強調された。

更には、外部から入り込んでくるコンピュータウイルス対策や、外部から情報を抜き取ってしまうスパイウェア対策も重要であり、ウイルス対策ソフトを最新のものに更新しておくこと、パソコンの画面が普段と違う動きをしていないか確認すること等に注意が必要であると説明された。

日常業務の中での個人情報保護は、可用性と機密性という相反する2つのいずれを優先するかという問題にいつも突き当たるが、必ずしも莫大なコストをかける必要はなく、ユーザーレベルで基本的な対策を講じれば十分である。

講演後には、出席者からパスワードを忘れないための工夫について等の質問があった。情報セキュリティ保護の方策を具体的に示していただき、大変有意義な研修会であった。



講演される渡辺氏：平成21年9月30日(水) 水道橋校舎血脇記念ホール

トピックス

大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム採択

文部科学省による国公私立大学(短大等を含む)を通じた大学教育改革の支援事業である「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」に、平成21年度、本学が申請したプログラムが選定された。平成17年度の特徴GP、現代GP同時採択から引き続き様々な実績を重ね、本学の教育が再度社会的に評価されたものである。

大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラムとは

国公立大学(短大等を含む)から申請された、各大学等における学士力の確保や教育力向上のための取組の中から、達成目標を明確にした効果が見込まれる取組を選定し、広く社会に情報提供するとともに、高等教育の質保証の強化に資するためのものである。本年度は649件の申請があり、96件が選定された。(採択率14.8%)

本学は主として「コミュニケーション教育と医療倫理教育をさらに発展させるテーマ」で国民が求める高い人間力と行動特性を持った医療人を養成する教育プログラムの取組を中心として申請し、書類審査ならびにヒアリング審査を経て採択された。本学には事業に対して3年間にわたり最大で年額1,670万円が交付される予定である。

【本学の取組】

「個々の患者のニーズに応えられる歯科医師養成」

【取組の概要】

国民の医療への要求に応えるには、個別の疾患に対する診断能力に加え、患者からより深い情報を引き出すことのできるコミュニケーション能力や高い倫理観、患者およびその周囲へ配慮する態度といった、医師・歯科医師の人間力とも言うべき能力の向上が不可欠である。

本取組は、高い倫理観とコミュニケーション能力を備えた歯科医師を養成する「総合診療計画立案能力養成カリキュラム」を作成する「総合診療計画立案能力養成プログラム委員会」の発足と、患者・一般社会人の視点から患者として学生の教育現場に参加し、学生および教員へ教育指導・評価を行う「ペイシエント・コミュニティ(P-Com)」の設立を軸とする。

本取組により、高い人間力と行動特性を持った医療人を育成する教育プログラムが開発され、医療技術、社会が求めている倫理観、患者との信頼関係、研究心、生涯学習の意欲・態度および全人的な素養を有する医療人の育成につながるものとする。

この取組は、全学的に教職員が一体となって組織的に実施し、教育の質を保証する上で更なる発展を目指す。

【選定理由】

当該取組は、本事業の趣旨に照らして審査を行った結果、教育の質の向上への大学等の対応が優れているとともに、取組の実現性、一定の成果と今後の展開についても期待できると評価できる。

【特に優れた点】

・達成されるべき具体的な行動目標が明確である。特に「ペイシエント・コミュニティ(P-COM)」を組織して行動目標を達成しようとする点は効果的と考えられ、高く評価できる。また、プログラム自体を評価・改善する「改善グループ」構成員を次年度のプログラムを企画・立案・実施する「実施グループ」に組み込むなど、評価を次年度に生かす試みも良く考えられている。

【改善を要する点】

- ・倫理教育の充実が、この取組でどこまで達成されるのか、目的とプロセスの検討が必要である。
- ・コミュニケーション力育成の成果をどのように評価するかについて、方策の明確化が求められる。

(大学教育等推進事業委員会より)

海外交流

鄭州大学口腔医学院と友好協力協定締結

平成21年8月18日(火)から20日(木)までの予定で、金子 讓学長、薬師寺 仁副学長、井上 孝国際渉外部長は、中国鄭州大学口腔医学院に友好校締結のため、成田を出発した。18日は11時に成田を立ち、北京空港着後国内線に乗り換え、午後5時鄭州空港に到着した。鄭州空港では、口腔医学院関係の先生方の出迎えを受け、歓迎会を行って頂いた。翌、19日(水)の午前中、市内の鄭州大学口腔医学院病院を見学した。口腔医学院の病院は、日本の数十年前を思わせるクレゾールの臭いと途上であることを伺わせる診療体系で、今後東京歯科大学との友好が大きな意味を持つと考えられた。見学後、郊外に位置し、学生5万人を擁する大学本部を訪問した。大学は、広大な敷地に、学生宿舎、職員宿舎を要する巨大な建物群と多くのスポーツ施設など、最新設備を持つものと認識された。鄭州大学本部では、大学学長をはじめとする要職にある方々と、友好校締結を行った。締結書は、日本語、中国語そして英語で書かれたものの3通が取り交わされた。締結後、両校の記念品の交換を行い、昼食を学長と共に取った後、鄭州空港へ向け出発、同日夕刻北京大学口腔医学院との姉妹校締結のため北京空港に向かい、北京で熱田俊之助理事長、原 正樹法人庶務課係長と合流した。



調印後握手する金子学長(左)と鄭州大学代表者(右):平成21年8月19日(水)、鄭州大学口腔医学院

北京大学口腔医学院との姉妹校協定締結

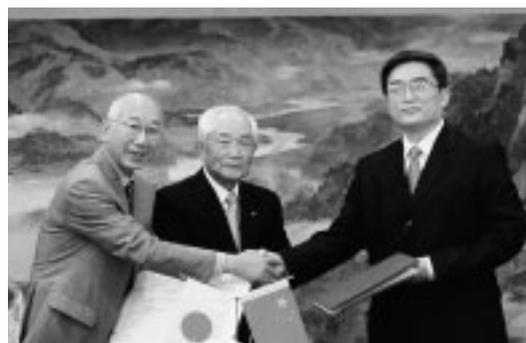
平成21年8月20日(木) 本学と北京大学口腔医学院との姉妹校協定が北京大学において締結された。締結式には、本学から熱田俊之助理事長、金子 讓学長、薬師寺 仁副学長、井上 孝国際渉外部長、原 正樹法人庶務課係長が列席。北京大学口腔医学院からは、徐 韜学長はじめ関係者が出席した。

はじめに徐 韜学長から北京大学口腔医学院を代表して挨拶があり、これを受けて熱田理事長から、「両校が姉妹校となり協力し、或いは切磋琢磨することで、両校のみならず日中両国、引いては全世界の歯科医学教育及び研究にまた一つ発展をもたらすであろうと確信しております。」と挨拶された。

つぎに金子学長から、「北京大学口腔医学院の第三代学長は本学のご卒業でもあり、前々から姉妹校協定を締結したいという機運がありました。本日が両校の新しい一ページとして飾れるよう、互いの友好的な協力をもって人類に貢献していきたいと思います。」と挨拶された。

つぎに、徐 韜学長、熱田理事長、金子学長により協定書への署名が行われ、引き続き記念品の交換を経て、締結式は約1時間で終了した。

全行程を通じ、北京大学口腔医学院を挙げての手厚い歓迎に感謝し、8月22日(土)に一行は空港から帰国の途についた。



協定締結後、握手を交わす熱田理事長(中央)、金子学長(左)と徐 韜学長(右):平成21年8月20日(木)、北京大学口腔医学院

長期海外出張者報告

有床義歯補綴学講座 講師 上田 貴之

平成19年11月1日より平成21年6月末までの1年8ヶ月間、スイス・ベルン大学補綴科に出張させていただきました。ベルンはスイス連邦の首都ですが、人口17万人と小さく、旧市街地はユネスコの世界遺産にも登録されている美しい街です。スイスには歯科大学が4校あって、ベルンの他にバゼル、チューリッヒ、ジュネーブにあり、すべて州立大学です。ベルン大学のあるベルン州は、ドイツ語圏の大学のため授業はすべてドイツ語で行われます。ただし、スイスの他の公用語であるフランス語、イタリア語の患者にも対応できるようなスタッフの配置がなされている点が特殊です。一方、英語は公用語ではないため、英語を話すスタッフは一部にとどまります。

ベルン大学補綴科は、主任教授のRegina Mericske-Stern先生以下、助教授3名、常勤医員8名で構成されています。この12名と非常勤講師で診療、教育、研究が行われており、体制は東京歯科大学に似ています。スイスでは、原則として歯科治療は保険適用外ですが、学生診療を希望する患者は安価に治療を受けることができます。診療費は、医員の診療費の約3分の1です。学生診療を希望した患者は、週1回、朝8時から12時まで、または、13時から17時までの4時間来院します。学生診療室には医員が交代で指導に行きます。補綴科では、試適時と装着後に主任教授の評価を受けます。また国家試験では、自分の担当した患者を連れて試験を受けます。患者は学生診療に非常に協力的で、学生の臨床教育には適した環境に思えます。しかしながら、学生診療のための患者が十分でないため、患者確保に苦労しています。

上述の学生診療を希望する患者以外にも多くの患者が来院しますが、受入限界を超えているため、患者には学生診療をお願いするか、同意の上で連携する開業医の補綴科専門医を紹介する場合がほとんどです。補綴科の診療は、インプラント補綴が多くを占めています。特に、インプラント支持の可撤性義歯(インプラントオーバーデンチャー)の適応頻度は高く、20年以上を経過した症例も少なくありません。パーアタッチメントに関する臨

床研究・臨床試験を現在でも積極的に行っています。また、コンピュータ支援下にてのインプラント手術も多く行われています。

出張中の私の研究は、主に2つのテーマで行われました。まず、10年以上の長期経過を持つインプラントオーバーデンチャーに関するものです。下顎無歯顎患者に適応された可撤性義歯を支持するインプラントの長期経過を、主にBone Lossを指標に検討しました。ベルン大学補綴科の多くの貴重なデータの分析を行うことができただけでなく、普段見ることができないような長期症例を拝見することができ、多くの臨床的示唆を得ることができました。また別に、シングルインプラントクラウンにおけるアパットメントの高さのクラウンの適合に与える影響を検討しました。この研究は、メタルクラウンだけではなく、CAD/CAMによるジルコニアクラウンも用いても行いました。

このような貴重な出張の機会を与您にいただきましたことを、関係各位ならびに櫻井 薫教授に厚く御礼申し上げます。また、出張中すべての面で力添えを頂きました有床義歯補綴学講座の皆様にも重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。



ベルン大学補綴科にて共同研究者と共に。(左より) Mericske-Stern主任教授、上田講師、Kremer助教授、Enkling助教授。

口腔外科学講座 助教 山本 信治

この度、私は大学のご厚意により平成21年4月1日より6月30日までの3ヶ月間、「北京大学システムの研修と口腔癌治療の習得」の課題のもと、中国の北京大学口腔医学院口腔顎顔面外科学講座に

留学させて頂きました。北京大学のある北京市は、中国の華北部に位置する首都で政治、文化、教育、医療の中心都市であります。北京大学は1912年に北京医科大学として創立したのち、2000年に北京大学医学部に合併し、2008年6月に現在の新病院が完成した伝統と近代的な先端医療を併せ持った由緒ある大学病院であります。現在の口腔顎顔面外科学主任教授のGuo Chuan-Bin先生は副学長も兼任しており、口腔癌の診断と治療を中心とした腫瘍学が専門で、臨床ならびに基礎的な研究論文を多数発表しているだけでなく、年間数多くの手術を行っている豊富な臨床経験を持つ教授であります。

北京大学の口腔顎顔面外科学講座は大きく4つの分野(腫瘍・再建外科、唇顎口蓋裂、顎変形症、外来小手術)に分かれており、この中で私は腫瘍・再建外科分野に所属し口腔癌における顎部郭清術・腫瘍切除術・再建術を学び、本学との手術の違いや高い手術技術を修得することが目的でありました。口腔外科の年間手術件数は3,000例以上あり、中でも悪性腫瘍は300例以上、再建外科も150例と衝撃的な手術実績を精力的に発信しております。手術室は8室あり、平日は毎日15~20件の手術が行われています。病棟は4病棟(腫瘍・再建外科が2病棟、唇顎口蓋裂が1病棟、顎変形症が1病棟)あり、総病床数は150床あります。

3か月間の出張中に行われた手術総数は約1,000例あり、うち悪性腫瘍は約100例で中でも私は再建術の手術を主に114例の手術に参加させて頂きました。腫瘍学のうち再建術を得意とするチームがあり、私はその手術チームの一員として前腕皮弁・腓骨皮弁・外側上腕皮弁・前外側大腿皮弁ならびにマイクロサージェリーのほとんどを経験することが出来ました。その他、日本では耳鼻科が

主に治療する耳下腺腫瘍の摘出術も25例参加することが出来ました。さらに、日本では経験したことのないドライアイの患者に対し、患者自身の顎下腺を涙腺に移植し唾液で涙の代用する手術が1例あり大変貴重な経験を致しました。

腫瘍や外傷によって生じた顎顔面欠損に対する再建術は、その後の咬合が重要な役割を果たすため、形成外科だけでなく口腔外科が担当しなければならない分野であります。再建術は今後も当講座において積極的かつ継続的に取り組んでいく手術であります。今回の出張で北京大学の驚異的な手術の症例数の多さと出血量を最小限に考慮した安全かつ確実な手術を経験させて頂いたこと、さらに麻酔科や看護師を含めた多くのスタッフが協力しシステマティックな治療を学べたことは、今後、本学で手術を行う上で大変有意義な研修を行うことが出来たと思います。

この度、このような長期海外出張の機会を与えてくださいました関係の方々へ感謝申し上げますとともに、帰国後はここで得た技術や経験を、臨床だけではなく教育や研究にも活かし本学へ貢献したいと考えております。



北京大学口腔医学院副学長、兼口腔顎顔面外科学講座主任教授Guo Chuan-Bin先生(写真右)と手術室にて：平成21年5月18日(月)

学生会ニュース

第41回歯学体結団式

第41回全日本歯科学学生総合体育大会夏季部門は、7月19日(日)~8月10日(月)までの23日間にわたり、明海大学歯学部事務主管のもと埼玉県近郊を中心に開催された。

大会を迎えるにあたり7月6日(月)午後12時20

分より、千葉校舎体育館において、冬期部門を含む18部門のクラブ部員が一同に集い結団式が挙行された。

金子 讓学長、佐藤 亨学生部長から「昨年以上の成績を残せるように頑張ってください。」と激励の言葉を頂いた。学生を代表して学生会運動部

長に加藤真麻さん(4年)が挨拶。選手宣誓を少林寺拳法部秋元佐和子さん(4年)が行い、「東京歯科大学の名に恥じぬよう全力を尽くします。」と力強い宣誓。その後は歯学体評議員の長嶺優樹君(3年)の司会進行のもと、各クラブ主将から決意の言葉が述べられた。

最後に校歌を斉唱し、午後12時50分に散会した。



選手宣誓をする少林寺拳法部秋元さん：平成21年7月6日(月)千葉校舎体育館

第41回歯学体報告会

第41回全日本歯科学生総合体育大会報告会が、9月3日(木)19時から千葉校舎厚生棟1階食堂において歯学体参加18部門のクラブ学生と教職員を集めて開催された。

はじめに、歯学体評議委員の長嶺優樹君(3年)より総合準優勝入賞の報告があった。引き続き金子讓学長より各部大健闘の祝辞を頂き、薬師寺仁副学長の音頭で乾杯の後、懇親会へ移った。今年の報告会は、優勝にあと一步の準優勝ということもあって、例年以上の盛り上がりを見せた。



金子学長より「学長賞」を受け取るバドミントン部員：平成21年9月10日(水)千葉校舎厚生棟1階食堂

延世大学校歯科大学との学生交流 学生代表13名が来日

今回で21回目を迎える延世大学校歯科大学との交流会は、KIM HEE-JIN教授、JANG YONG-HYUN事務職員引率のもと13名の学生が来日した。

本学からは、渡邊美貴学生会交流局長を筆頭に黄地健仁君(5年)奥原優美さん、金亨俊君、久保宗平君、納賀秀則君、藪下雅子さん(4年)有馬英仁君、石田結実香さん、遠藤亜希さん、大島俊彦君、越智弘泰君、釜谷夏紀さん、京極啓君、齋藤馨君、隅田賢正君、染谷智子さん、高橋香央里さん、崔大煥君(3年)榎本奈三さん、角野夢子さん、泉福隼人君、高木紗耶華さん、高田佳奈さん、高橋史子さん、田中亜生君、濱田真衣さん、星野立樹君、山田朗寛君(2年)釘宮嘉浩君、原田正和君(1年)の31名が参加して行なわれた。

8月17日(月)12時30分。延世大学一行は、成田空港に到着し待ち構えていた本学学生の歓迎を受けた。英語と覚えたての韓国語でごちない挨拶を交わしていたが、千葉校舎に着く頃には和気藹々とし和やかな雰囲気になった。

この日の夜は、金子讓学長主催の歓迎会が千葉市内のホテルで行われ、大いに親睦が深められた。時間がたつにつれ、あちこちで乾杯の音が上がり、会場内も活気があふれた。

8月18日(火)寝不足の顔が見受けられるが、全員元気に午前中の予定である市川総合病院見学へ貸し切りバスで向かい、山根源之副病院長はじめ担当医局員から最新の医療・医療機器の説明を懇切に受けた。

午後からは、延世大学校の学生らが楽しみにしていた東京ディズニーランドへ向かった。ここからは自由時間となり、すっかり打ち解けた学生同士は、夢のような楽しい時間を過ごした。

8月19日(水)10時から病理学講座・村松敬講師の特別講演が行なわれ、両校が重ねてきた学生交流の歴史などが詳細に披露された。学生たちは先輩が築いてきた学生交流の歴史に耳を傾け、絶やすことなく後輩に伝えていかなければいけないと感じ取ってくれたと思う。

8月20日(木)お昼をはさみ千葉校舎体育館アリーナで延世対東歯の球技大会が行なわれた。数時間に及んだ大会は日韓戦のサッカーに負けないぐらい盛り上がり、真夏日を記録したとても暑い日だったが、とてもすがすがしい学生達の姿があった。

この盛り上がりを持続させたまま千葉港に隣接した夜景の綺麗な「ハーバーシティ蘇我」でバーベキューを楽しみ、ホテルに帰ってから時間も経つのを忘れて語り合っていた。

8月21日(金)あつという間の5日間。学生にとっては瞬く間に時間が経過し別れの日を迎えてしまった。韓国は世界で一番近い日本の隣国であり、同じ歯学を志し、同世代を生きる者同士。たくさんの奇跡が重なって出会った「縁」に感謝して自国のみならず、アジア諸国はもちろんのこと世界の歯科医療の発展に貢献する人材に育って欲しいと願う。

延世学生交流会を終えて

学生会国際交流局長 渡邊 美貴(4年)

今年は、本学から31名の学生が参加して延世大学の学生13名をお迎えしました。昨年参加した人は再会の喜びに、初めて参加した人は新しい出会いに心躍らせ、この交流会に臨みました。

今回、病理学講座の村松先生が特別講演を行われ、十数年前に金教授と“partnerを組んだ関係”ということを知った私達学生は、驚くと同時にこ

の交流会の深さを目の当たりにしました。そして、私達も時を経ても変わらない友情を育めるようにと時を過ごしました。見送りの空港では、別れを惜しんで涙し、再会の約束をする光景を見て、この5日間という短い時間がいかに充実し、濃厚であったかを実感しました。帰国後もメールで連絡を取り合うなど私達の友情は変わることなく続いていくことを確信しました。また、延世大学との交流だけではなく、本学参加学生同士の触れ合いが出来ることも魅力の一つだと思います。この交流会を通して、お互いを理解することで自分の視野を広げ、将来の自分の選択肢の幅を広げるためのツールを得ることが出来る素晴らしい機会であり、素敵な友人に巡り逢えたことに感謝しております。

最後になりましたが、私達学生をサポートして下さいました学生部長をはじめとする先生方、学生課の皆様、OBの先輩方に厚く御礼申し上げます。



記念品のTシャツを手渡す渡邊美貴交流局長(右)：平成21年8月17日(月)、千葉校舎第一会議室



口腔がんセンターの説明を受ける延世大学生：平成21年8月18日(火)、市川総合病院



民族衣装を着た延世大学生と記念撮影：平成21年8月19日(水)、千葉校舎第一会議室



シンデレラ城をバックに記念撮影：平成21年8月18日(火)、東京ディズニーランド

図書館から

本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

柳澤孝彰 [ほか] 著「エナメル質 - 形成、構造、遺伝、再生、起源と進化 - 」わかば出版、2009

村松 敬 [ほか] 著「歯牙移動による歯周組織再生療法」砂書房、2009

本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、できましたらご寄贈のほどよろしく願いいたします。

JCR・インパクトファクター講習会開催

平成21年7月2日(木)午後6時より、千葉校舎第2教室において、学術雑誌の評価ツールである「Journal Citation Reports」と学術雑誌の影響力を示す指標の一つである「インパクトファクター」をテーマとして「JCR・インパクトファクター講習会」を開催した。当日参加者は64名であった。講師にはトムソン・ロイターの広瀬容子氏を迎え、JCR、インパクトファクターだけでなく、新指標である5年インパクトファクターやアイゲンファクターなどをご説明いただいた。アンケートでは参加者の80%以上の方が満足度を7割以上と回答しており、大変好評を得た結果となった。

蔵書点検実施

平成21年7月22日(水)から24日(金)の3日間、千葉校舎本館において蔵書点検を行った。毎年利用者の少ない夏期に閉館して実施しており、今年は2階閲覧室の専門図書・教養図書(毎年点検)と3階書庫の製本洋雑誌を対象として現物を点検した。また、これに先立ち7月16日(木)に水道橋分館、17日(金)に市川総合病院分館の蔵書点検を行った。点検の結果不明であることが判明した資料については、引き続き調査するとともに利用に支障がないように対応を検討したい。

外国雑誌購読見直しについてのアンケート実施

平成21年8月、今秋の2010年購読雑誌契約更新に向けて、現在購読中の雑誌タイトル(歯科を除く)の継続および利用形態について学内にアンケート

調査を行った。アンケートは千葉校舎、市川総合病院、水道橋病院の各部署に依頼し、継続および新規購読希望雑誌を回答していただいた。寄せられた意見・要望には電子ジャーナルの利便性、必要性の意見が多く見られるのと同時に、分野によってはプリント版を必要とする雑誌もあった。

大学史料室から

血脇守之助先生揮毫の書ほかの寄贈を受ける平成21年7月、新潟県長岡市在住の永井正紀先生(平成8年卒)から血脇守之助先生揮毫の扁額一幅「勿怒」をご寄贈いただいた。



永井先生より寄贈された血脇先生揮毫の扁額

平成21年7月、広島県広島市在住の藤井秀世先生(昭和49年卒)から血脇守之助先生・奥村鶴吉先生の写真2枚および、血脇先生からご尊祖父藤井十太郎先生へ宛てた手紙2通をご寄贈いただいた。写真の一枚は、血脇先生・奥村先生の学位服姿の写真で、お2人のサインの付いた貴重なものである。



藤井先生より寄贈された血脇先生・奥村先生の写真

平成21年7月、栃木県宇都宮市在住の天沼 隆先生(昭和54年卒)からご尊父天沼龍雄先生(昭和13年卒)の当時の教科書12冊、ご尊祖父天沼浦之助先生(東京歯科医学校卒)宛ての血脇守之助先生・奥村鶴吉先生からの手紙7通、当時の写真18枚、および木床義歯3点をご寄贈いただいた。



天沼先生より寄贈された血脇先生を囲む集合写真

平成21年7月、昭和47年卒の笠原 香先生(長野県下諏訪町在住)、宮川謙次先生(神奈川県川崎市在住)、吉野正彦先生(千葉県いすみ市在住)から昭和42年の市川祭の記録映画(CD-R版)をご寄贈いただいた。これは、三先生が8ミリ映画として自主的に撮影・制作した市川祭の映像に、卒業直前の昭和47年の総武快速線工事中の江戸川や高架化した市川駅、進学課程の映像を加え再編集し、謝恩会で上映した作品で、当時の貴重な映像資料である。

平成21年8月、埼玉県秩父郡皆野町在住の蒔田秀夫氏からご尊父蒔田國光先生(昭和10年卒)が受賞された、早川賞のメダルおよび石膏模型をご寄贈いただいた。早川賞は卒業生への褒賞の一つで、補綴学及び保存学実習成績優等者に早川可美良先生の奨学基金から金メダルを授与した。裏面には、「第四年級在學中技工學實習成績優等二付早川奨学金ヲ以テ之ヲ授與ス」と刻まれている。歯科学報雑報欄の卒業式に関する記事に、大正13年3月から昭和18年9月まで、毎年2~3名の早川賞受賞者の氏名が記載されている。



蒔田氏より寄贈された早川賞金メダル

平成21年9月、新潟県上越市在住の相澤 紀氏からご尊祖父相澤幸助先生(明治44年卒)の卒業アルバムをご寄贈いただいた。

ご寄贈いただいた貴重資料は史料室で大切に保存し、広く閲覧に供し後世に伝えて参ります。

歯科衛生士専門学校ニュース

歯科衛生士養成校合同説明・相談会開催

平成21年8月23日(日)水道橋校舎血脇記念ホールにおいて、歯科衛生士養成校入学志願者のための合同説明・相談会が開催された。今回は、東京歯科大学水道橋病院において臨床実習をおこなっている歯科衛生士養成校としてアポロ歯科衛生士専門学校、埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開

発学科口腔保健科学専攻、太陽歯科衛生士専門学校、東京歯科大学歯科衛生士専門学校4校が説明会・相談会を行った。当日は、模擬授業、参加校の紹介、個別相談会を行い、約50数名の参加者が熱心に説明を受け、自由に各校に相談を行い歯科衛生士を目指す参加者の進路を決める上での参考になったと思われる。

平成21年度科学研究費補助金決定

平成21年度科学研究費補助金は、平成21年6月9日付で文部科学省および日本学術振興会から配分額の決定が通知された。

本年度、本学に交付される科学研究費補助金の研究種目別決定額および研究者別交付額は別表のとおりである。

平成21年度科学研究費補助金交付決定一覧

平成21年8月25日現在

研究種目	件数	交付決定額(千円)		
		直接経費(研究費)	間接経費	合計
基盤研究(A)	1	3,900	1,170	5,070
基盤研究(B)	2	6,900	2,070	8,970
基盤研究(C)	23	20,900	6,270	27,170
挑戦的萌芽研究	1	1,200		1,200
若手研究(B)	17	19,500	5,850	25,350
合計	44	52,400	15,360	67,760

科学研究費補助金 平成21年度新規採択課題の要旨

基盤研究(B) 眞木 吉信 教授

「特定および要介護高齢者の口腔環境・機能のアセスメントと改善・向上プログラムの構築」

高齢者を対象とした口腔保健ケアは、器質的環境改善ケアと機能的ケアの2つに大きく分けることができる。器質的環境改善ケアの効果については、誤嚥性肺炎の予防や口腔内細菌数の減少など実証的な報告が見られる。しかしながら、口腔機能の向上を目的としたプログラムの導入については、平成18年度から始まった介護予防の一項目として導入はされたが、この効果を実証する客観的な調査・報告の数は少ない。本研究では、第1段階として、介護施設入居高齢者の器質的・機能的な口腔保健状態の実態調査を行い、ベースラインデータを取得する。第2段階として、自立高齢者の口腔保健状態の実態調査を行い、介護施設入居高齢者と比較する。第3段階として、介護施設入居高齢者を2群に分け、器質的な口腔保健ケアと機能的な口腔保健ケアの異なる介入研究を行い、要介護高齢者ならびに自立高齢者のベースラインデータと比較・評価をし、要介護高齢者に対する効果的な口腔保健ケアのプログラムを検討する。

基盤研究(C) 君塚 隆太 講師

「歯周病原性菌線毛のアミロイド線維形成とバイオフィーム形成との関連性」

バイオフィームは、細菌が産生する菌体外多糖に覆われており、菌体外多糖を介して粘膜面や歯面、カテーテルなどの医療機器に定着し増殖したものである。最近、天然バイオフィーム内に細菌由来のアミロイド線維が見いだされ、バイオフィーム形成に関与することが報告された。歯周病原性バイオフィームは、いったん形成されると生体の防御機能や抗菌薬に抵抗性を示し歯周病のみならず全身性疾患の原因になると考えられている。本研究でバイオフィーム形成にアミロイド線維が関わるが見出せれば、アミロイド線維をターゲットとする新しいバイオフィーム治療法に繋がるものと考えられる。

歯周病原性バイオフィームを構成する細菌は、そのほとんどが菌体外多糖を産生しておらず、バイオフィーム内における粘着性の高い原因物質は、他にも存在することが示唆されている。

基盤研究(C) 石原 和幸 教授

「歯周病原性細菌コンソーシア形成機構の解析」

歯周炎は壮年期以降の罹患率が非常に高く、糖尿病等の全身疾患に関連している事も示されている。この原因である歯肉縁下バイオフィームは、その形成プロセスで構成菌種が変化している。歯周病原性バイオフィームの形成にはこれらの細菌間に形成されるコンソーシアム内での細菌間コミュニケーションが重要な役割を果たしていると考えられている。本研究では、病原性の少ない歯肉縁下バイオフィームが歯周病原性バイオフィームへと変化していくプロセスでの細菌種の変化と、それに伴って起こる細菌間相互作用を明らかにすることを目的としている。このメカニズムの解明は、歯周病原性バイオフィーム形成を阻止する新しい予防法の確立を可能とする。

基盤研究(C) 嶋村 一郎 准教授

「ポリアミド系樹脂製義歯の有用性についての検討」

近年フレキシブルデンチャーあるいはノンクラスデンチャーと称して、弾性の高い樹脂を用いた義歯が臨床応用されています。このような義歯は弾性係数が低く、床用材料としての剛性が不十分であることから、支台歯の過重負担や顎堤の圧負担の偏在を招くおそれがあると思われます。一方で審美性が高いこと、薄く装着感が良いこと、破折しにくいこと、レジナルアレルギーの患者に使用できることなどの利点も有しており、症例によっては有用な場合もあると思われます。しかしながら、支台歯を取り囲む維持部の形態の設計基準は明らかにされておらず、経験をたよりに製作されているのが現状です。本研究は、このような義歯の一種であるポリアミド系(ナイロン系)樹脂製の義歯において、維持部の設計と発揮維持力の関係を明らかにし、その有用性について検討しようとするものです。

基盤研究(C) 松久保 隆 教授

「学齢期における生活習慣病リスクと咬合咀嚼機能の関連性に関するコホート研究」

学齢期の子どもたちの健康は、両親(保護者)のライフスタイルからの直接的な影響が強く、小児期の生活習慣病の誘因になっている。「食育」の大きな柱である食生活の改善は、乳幼児期から

成人期にかけての健康づくりに大変重要であるが、生活習慣病と「口腔機能の発達、維持と増進」との関連性を追究した研究はほとんどない。本研究は、当講座の協力で市川市歯科医師会が行っている「口腔機能の発達、維持と増進」に注目した「すこやか口腔健診」と市川市医師会が行っている「生活習慣病の早期発見」に注目した「すこやか検診」の結果を比較検討し、学校保健における食育における口腔機能の維持と増進の役割を位置づけることを目的としている。

基盤研究(C) 杉原 直樹 講師

「根面う蝕のコホート研究に基づいたう蝕予防ガイドラインの作成」

8020運動や健康日本21の推進、新健康フロンティア戦略により、高齢者の残存歯数が増加することによって、高齢者の根面う蝕の発病リスクはさらに増加し、その予防の必要性もさらに高くなると考えられる。

本研究は、成人および高齢者の集団に対して、根面う蝕の断面調査および追跡調査を実施し、有病率と発病率を明らかにすると共に、関連する要因についての曝露を調査し、その発病のリスクファクターと相対危険度を明らかにする。

日本においては、EBMに基づいた臨床ガイドラインが不足しているのが現状であり、本研究を実施するとともに、その他の根面う蝕についての文献調査を行うことにより、う蝕予防プログラムに基づいた予防ガイドライン作成のための資料とすることができる。

若手研究(B) 柴山 和子 助教

「新規なバイオフィーム形成遺伝子から探る口腔カンジダ症の発症・進行メカニズム」

*Candida albicans*は多くの健常者の人体より検出される常在性真菌であるが、全身または局所の防御機構に異常を有する宿主においてカンジダ症を引き起こす。*C. albicans*では未同定因子を含め複数の病原因子が複合的に作用して病原性を発揮するものと推察されている。本研究の特色は、病原性への関与が示唆される*C. albicans*の新規な細胞表面分子に焦点を当て、全身および口腔領域における真菌の病原性の包括的理解を目指す点にある。*C. albicans*による感染の成立から病原性の発

揮に至るまでの遺伝子発現制御を含めた機能解析を進める予定であり、カンジダ症発症・進行メカニズム解明の一助となることが期待される。

若手研究(B) 亀山 敦史 講師

「新規405nm紫色半導体レーザーを応用した光重合型高分子歯科材料の新規開発」

現在、広く歯科臨床で使用されている光重合型レジン系接着材料は、重合用光源として波長470nm付近の青色光を、また光源に反応する重合開始剤としてカンファーキノンを用いている。しかしながら、カンファーキノン自体は決して光への感受性が高いとは言えず、またそれ自体がもつ黄色味が審美性に与える影響も短所として挙げられている。そこで、少ない光エネルギーでより効率よく重合させるための光重合型レジン系接着材料を開発すべく、紫色光に感受性の高い接着材料を試作し、その重合率や接着性能、物性、色調、生体適合性について検討することを本研究の目的としている。具体的には、開始剤の種類や配合率などを材料の観点から、またパワー密度や照射時間など照射条件をレーザー光の観点からそれぞれ比較し、より最適な条件を導き出したいと考えている。

若手研究(B) 国分 栄仁 助教

「接着タンパク制御による新たなインプラント材料の解明」

今回の研究は表面形状のモデルを作成し、若年と加齢ラットから採取した口腔組織細胞を播種する。そして接着関連タンパクの発現および各細胞の機能発現を組織学的および分子学的に検索し、エイジング変化に対応したインプラント表面形状の解明することである。

歯科インプラントと口腔組織の接触界面を考える上でエイジングは重要な位置を占める。インプラント治療は各年代に幅広く応用され、口腔粘膜上皮との緊密な接着、歯肉結合組織との強固な結合、良好なオッセオインテグレーションを行うことで、口腔内細菌の侵入経路を封鎖することが可能となり、エイジングに対応したインプラントの作製が可能となる。

若手研究(B) 村上 聡 助教

「歯科用レーザーによる口腔領域の間葉系細胞活性化療法の確立」

レーザーは細胞活性を促すことも知られ、研究はいくつかあるが、その臨床応用はほとんどない。一方、近年の創傷治癒ならびに再生療法に関する研究では、各組織における間葉系細胞や組織(臓器)幹細胞の応用が注目されている。特に組織幹細胞の存在は口腔領域においても報告されはじめており、再生療法や創傷治癒への応用に期待されている。本研究の目的は口腔領域の間葉系細胞およびSP細胞に対する炭酸ガス(CO₂)レーザーおよび半導体レーザーによるLLLT(Low reactive Level Laser Therapy)を想定し、必要な細胞を活性化させ、サイトカインネットワークを調整し、創傷治癒の促進、疼痛の緩和により病態をより早く常態に戻すメカニズムを検索することである。

若手研究(B) 伊藤 太一 講師

「骨粗鬆症と歯周病およびインプラント周囲炎との関連性」

顎骨の骨粗鬆症は歯槽骨の吸収を促進することが報告されており、骨粗鬆症は、歯の喪失の潜在的なリスクファクターの1つと考えられている。骨粗鬆症と歯周病の発症には共通する点が多く、相互に関連性があると考えられるようになってきた。

骨粗鬆症の治療では将来の骨折リスクを評価する手段として、骨代謝マーカーの利用が重要な位置を占めるようになってきている。我々の研究室ではインプラント治療を希望し、骨代謝関連検査を受けた患者のうち、1/3以上の症例で基準値の逸脱が認められ、通常のおッセオインテグレーションとは異なる治癒過程を示す可能性があると考えられる。骨粗鬆症が歯周病を悪化させる因子であることは数々の調査や研究で明らかになってきているが、骨代謝の異常が歯周病およびインプラント周囲炎にどのように影響を与えるかはわかっていない。

当研究の目的は、歯周病およびインプラント周囲炎の状態を精密に検査し、各骨代謝マーカーのデータを解析し、歯周病およびインプラント周囲炎と骨粗鬆症との関連性を調べることである。

若手研究(B) 恩田 健志 助教

「口腔扁平上皮癌における新規転移メカニズムの解明」

腫瘍の浸潤や転移には様々な遺伝子の発現異常が関与していることが報告されているが、そのメカニズムは未だ解明されていない。近年の分子生物学的解析技術の進歩により、疾病の網羅的遺伝子発現プロファイリングが可能となってきた

る。本研究では、ヒト全遺伝子搭載DNAチップを用いて、癌、正常組織、リンパ節転移組織における遺伝子発現の違いを網羅的に明らかにする。さらにリストアップされた遺伝子群について遺伝子導入法をはじめとする分子生物学的解析手法を駆使して、細胞内での遺伝子機能を解明、口腔扁平上皮癌の新規予後の判定方法、新規治療法選択基準の設定、新規転移抑制剤の開発を目指す。

平成21年度科学研究費補助金研究者別交付一覧

平成21年8月4日現在

研究種目	研究代表者氏名	21年度 新規 採択者	交付決定額 単位(千円)	研究課題
			直接経費	
基盤研究(A)一般	井上 孝 教授		3,900	機能性インプラントのためのセメント質誘導ペプチド創製
基盤研究(B)一般	小田 豊 教授		2,100	歯科用合金の耐食性評価のための新たな電気化学的アプローチ
基盤研究(B)一般	眞木 吉信 教授		4,800	特定および要介護高齢者の口腔環境・機能のアセスメントと改善・向上プログラムの構築
基盤研究(C)一般	阿部 伸一 准教授		800	筋機能再活性に関与する筋幹細胞分化過程解明のフロンティア
基盤研究(C)一般	波川 義宏 准教授		1,400	遺伝子発現解析による下顎頭に加齢の変化と変形性顎関節症の病態の解明
基盤研究(C)一般	下野 正基 教授		700	歯肉付着上皮の接着・細胞移動の分子機構
基盤研究(C)一般	和光 衛 准教授		500	歯科用コーンビームCT画像に基づくインプラント周囲骨のクリニカルバイオニクス
基盤研究(C)一般	井出 吉信 教授		600	歯科インプラントにおける偶発症防止のための顎骨内部構造の解析
基盤研究(C)一般	松坂 賢一 准教授		1,000	口腔エイジング解析によるリジュヴェネーション
基盤研究(C)一般	宮内 潤 教授		1,100	ダウン症児における一過性骨髄増殖症の自然治癒機構に関する分子・細胞生物学的研究
基盤研究(C)一般	田中 一郎 准教授		900	ビデオ画像の3次元的表情解析による顔表情運動障害の診断・治療支援システムの解析
基盤研究(C)一般	加藤 哲男 准教授		1,000	歯周病原性バイオフィーム形成因子の分子生物学的解析と機能性タンパク質による抑制
基盤研究(C)一般	村松 敬 講師		800	マイクロアレイで検出された歯牙形成遺伝子候補は本当に歯牙形成に関与しているか?
基盤研究(C)一般	橋本 貞亮 准教授		900	唾液腺の傍細胞経路による唾液分泌調節機能の解明とその活性化
基盤研究(C)一般	波川 義幸 講師		500	歯牙発生過程における近遠心類舌側決定因子: 歯胚Ca信号の非対称性分布と制御機構
基盤研究(C)一般	櫻井 薫 教授		800	咀嚼時の咬合力とストレス緩和効果
基盤研究(C)一般	三宅菜穂子 助教		800	歯冠用硬質レジンへの唾液タンパクの吸着をコントロールできるのか
基盤研究(C)一般	武田 友孝 准教授		500	咬合干渉が情動反応に及ぼす影響
基盤研究(C)一般	矢島 安朝 教授		1,200	インプラント周囲口腔粘膜は癒化しやすい!
基盤研究(C)一般	櫻井 学 講師		1,000	鎮静・催眠からの回復促進効果に対するアデノシン受容体の関与
基盤研究(C)一般	渡邊 裕 講師		1,100	ミラーニューロンは嚥下障害を改善するか? マルチモダリティ脳計測による解明
基盤研究(C)一般	君塚 隆太 講師		1,000	歯周病原性菌線毛のアミロイド線維形成とバイオフィーム形成との関連性
基盤研究(C)一般	石原 和幸 教授		1,400	歯周病原性細菌コンソーシア形成機構の解析
基盤研究(C)一般	嶋村 一郎 准教授		700	ポリアミド系樹脂製義歯の有用性についての検討
基盤研究(C)一般	松久保 隆 教授		1,100	学齢期における生活習慣病リスクと咬合咀嚼機能の関連性に関するコホート研究
基盤研究(C)一般	杉原 直樹 講師		1,100	根面う蝕のコホート研究に基づいたう蝕予防ガイドラインの作成

研究種目	研究代表者氏名	21年度 新規 採択者	交付決定額 単位(千円)	研究課題
			直接経費	
挑戦的萌芽研究	小田 豊 教授		1,200	歯科用CAD / CAMから三次元造形への展開
若手研究B	大久保真衣 助教		500	MR画像上での予測因子発見プロジェクト - 嚙下機能低下の早期発見に向けて -
若手研究B	佐々木穂高 助教		800	歯牙発生で減少した未解明遺伝子の発現・機能解析
若手研究B	天谷 哲也 講師		900	2波長発振レーザーは、齲蝕治療に有効か？
若手研究B	中澤妙衣子 助教		600	二酸化チタン含有漂白剤の漂白効果について
若手研究B	松永 智 助教		1,500	生体アパタイトの配向性をも考慮に入れた顎骨の高分解能・大規模有限要素解析
若手研究B	田坂 彰規 助教		1,000	咀嚼回数がストレス緩和効果に影響を及ぼすか？
若手研究B	武本 真治 講師		900	口腔内をシミュレートしたチタン合金の耐食性評価方法の確立
若手研究B	山本 信治 助教		1,500	口腔癌におけるマッピングアレイを用いた全染色体上の構造異常の解明
若手研究B	池田 千早 助教		1,500	口腔扁平上皮癌におけるアポトーシス阻害遺伝子survivinの発現について
若手研究B	稲垣 覚 助教		500	複数菌種による歯周病原性バイオフィーム内における細菌間コミュニケーションの解明
若手研究B	丸山 澄 助教		1,400	法歯学的資料からのDNA多型による個人識別と人種推定のデータベースの作成
若手研究B	柴山 和子 助教		1,700	新規なバイオフィーム形成遺伝子から探る口腔カンジダ症の発症・進行メカニズム
若手研究B	亀山 敦史 講師		2,100	新規405nm紫色半導体レーザーを応用した光重合型高分子歯科材料の新規開発
若手研究B	国分 栄仁 助教		900	接着タンパク制御による新たなインプラント材料の解明
若手研究B	村上 聡 助教		1,300	歯科用レーザーによる口腔領域の間葉系細胞活性化療法の確立
若手研究B	伊藤 太一 講師		1,400	骨粗鬆症と歯周病およびインプラント周囲炎との関連性
若手研究B	恩田 健志 助教		1,000	口腔扁平上皮癌における新規転移メカニズムの解明
合 計			52,400	

人物往来

国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

太陽歯科衛生士専門学校(学生89名、教員3名)

平成21年7月15日(水)微生物学実習

埼玉県立大学保健医療福祉学部(学生30名、教員1名)

平成21年7月21日(火)解剖学教室、標本室、病院見学

国際医療福祉専門学校(学生37名、教員4名)

平成21年7月31日(金)解剖学実習室、標本室見学

つくば歯科衛生・マイスター専門学校、取手歯科衛生専門学校(学生35名、教員3名)

平成21年9月1日(火)解剖実習見学、病院見学

茨城歯科専門学校(学生38名、教員2名)

平成21年9月24日(木)解剖学教室、病院見学

市川総合病院

東京医科歯科大学医学部(学生3名)

平成21年9月24日(木)、25日(金)インターンシップ

海外出張

野村武史講師(口腔外科)

ブリティッシュコロロンビア大学で口腔癌の早期診断に関する分子生物学的研究のため、平成21年7月1日(水)カナダ・バンクーバーへ出発。帰国は平成22年6月30日(水)の予定。

山根源之教授、渡邊 裕講師、高木幸子レジデント(市病・オーラルメディスン)

国際老年学会に参加および発表のため、平成21年7月4日(土)から、山根教授は10日(金)まで、

渡邊講師、高木レジデントは11日(土)まで、フランス・パリへ出張。

加藤靖浩ポストドクトラルフェロー(口腔科学研究センター)

International Society for Stem Cell Research 7th Annual Meetingに参加および発表のため、平成21年7月7日(火)から14日(火)まで、スペイン・バルセロナへ出張。

石上恵一教授、中島一憲講師(スポーツ歯学) 大韓スポーツ歯科学会で特別講演、および共同研究の打ち合わせのため、平成21年7月10日(金)から12日(日)まで、韓国・ソウルへ出張。

野村真弓助教(歯科矯正)

テキサス大学ヘルスサイエンスセンター・サンアントニオ校歯科矯正学講座で発表のため、平成21年7月16日(木)から23日(木)まで、アメリカ・テキサスへ出張。

白石建教授、山根淳一助教(市病・整形外科) 北アメリカ脊椎外科学会・日本脊椎脊髄病学会合同学会に参加および発表のため、平成21年7月26日(日)から、白石教授は8月1日(土)まで、山根助教は7月30日(木)まで、アメリカ・ハワイへ出張。

佐藤亨教授、宅間裕介レジデント(クラウンブリッジ補綴)

The 6th World Congress of the International Federation of Esthetic Dentistryに参加および発表のため、また、プリティッシュコロロンビア大学見学のため、平成21年8月1日(土)から9日(日)まで、アメリカ・ラスベガスおよびカナダ・バンクーバーへ出張。

橋本正次教授(法人類)

航空機事故犠牲者(邦人)の身元確認のため、平成21年8月15日(土)から24日(月)まで、パプアニューギニア・ポートモレスビーへ出張。

熱田俊之助理事長、原正樹係長(法人庶務課) 北京大学口腔医学院との姉妹校締結のため、平成21年8月19日(水)から22日(土)まで、中国・北京へ出張。

金子讓学長、薬師寺仁副学長、井上孝国際渉外部長

北京大学口腔医学院との姉妹校締結、および鄭州大学表敬訪問のため、平成21年8月18日(火)から、金子学長、薬師寺副学長は22日(土)ま

で、井上国際渉外部長は20日(木)まで、中国・北京、鄭州へ出張。

末石研二教授(歯科矯正)

高雄市牙醫師公會60周年口腔保健嘉年華会・学術講習で講演のため、平成21年8月21日(金)から26日(水)まで、台湾・高雄市へ出張。

井上孝教授(臨床検査)

第97回FDI年次世界歯科大会に出席のため、平成21年8月30日(日)から9月5日(土)まで、シンガポールへ出張。

篠崎尚史講師・角膜センター長(市病・角膜センター)

ベトナム国立眼科病院にて講義、ベトナム国立熱傷センター・厚生省訪問、およびベトナム眼科学会に参加のため、平成21年9月3日(木)から15日(火)まで、ベトナム・ハノイへ出張。

眞木吉信教授(衛生)

第9回国際予防歯科学会で講演のため、平成21年9月3日(木)から11日(金)まで、タイ・プーケットへ出張。

米津卓郎講師(小児歯科)

第9回国際予防歯科学会に参加および発表のため、平成21年9月7日(月)から、10日(木)まで、タイ・プーケットへ出張。

内山健志教授、須賀賢一郎講師、吉田秀児大学院生(口腔外科)

11th International Congress on Cleft Lip and Palate and Related Craniofacial Anomaliesに参加および発表のため、平成21年9月7日(月)から、内山教授は15日(火)まで、須賀講師、吉田大学院生は18日(金)まで、ブラジル・フォルタレーザへ出張。

坂本輝雄講師(歯科矯正)

11th International Congress on Cleft Lip and Palate and Related Craniofacial Anomaliesに参加および発表のため、平成21年9月7日(月)から18日(金)まで、ブラジル・フォルタレーザへ出張。

外木守雄准教授(市病・オーラルメディシン) AOCMF Asia Pacificでセミナー講演のため、平成21年9月9日(水)から13日(日)まで、ベトナム・ホーチミンへ出張。

ピッセン弘子教授(水病・眼科)

European Society of Cataract and Refractive Surgeonsに参加および発表のため、平成21年9月11

日(金)から16日(水)まで、スペイン・バルセロナへ出張。

恩田健志助教(口腔外科)

第34回欧州臨床腫瘍学会および第15回欧州癌学会で発表のため、平成21年9月18日(金)から28日(月)まで、ドイツ・ベルリンへ出張。

穴澤卯圭講師、浅野尚文臨床専修医(市病・整形外科)

15th International Symposium on Limb Salvageに参加および発表のため、平成21年9月21日(月)から28日(月)まで、アメリカ・ボストンへ出張。

小田 豊教授(歯科理工)

2nd Meeting of IADR Pan Asian Pacific Federation、1st Meeting of IADR Asia Pacific Region、および国際歯科研究会日本部会(JADR)に参加および発表のため、平成21年9月21日(月)から25日(金)まで、中国・武漢へ出張。

佐野 司教授、神尾 崇助教(歯科放射線)

2nd Meeting of IADR Pan Asian Pacific Federation、1st Meeting of IADR Asia Pacific Region、および国際歯科研究会日本部会(JADR)に参加および発表のため、平成21年9月21日(月)から25日(金)まで、中国・武漢へ出張。

佐藤 裕准教授(生化)

2nd Meeting of IADR Pan Asian Pacific Federation、

1st Meeting of IADR Asia Pacific Region、および、国際歯科研究会日本部会(JADR)に参加および発表のため、平成21年9月21日(月)から25日(金)まで、中国・武漢へ出張。

上田貴之講師(有床義歯補綴)

スイス・ベルン大学補綴科との共同研究、および33rd Annual Congress of European Prosthodontic Associationで発表のため、平成21年9月22日(火)から10月5日(月)まで、スイス・ベルン、オーストリア・インスブルックへ出張。

阿部伸一准教授(解剖)

New York UniversityのInternational Programの講演および実習を行うため、平成21年9月24日(木)から28日(月)まで、中国・青島へ出張。

櫻井 薫教授、竜 正大助教(有床義歯補綴)

Regina Mericske-Stern教授との研究打ち合わせおよび、33rd Annual Congress of European Prosthodontic Associationで発表のため、櫻井教授は平成21年9月28日(月)から、竜助教は9月27日(日)から、いずれも10月5日(月)まで、オーストリア・インスブルックへ出張。

佐藤隆太大学院生(臨床検査)

European Association for Osseointegrationで発表のため、平成21年9月29日(火)から10月6日(火)まで、モナコへ出張。

大学日誌

平成21年7月

1(水) 千葉校舎課長会

大学院春期ベーシックセミナー

(6/30.7/2.7.8.9)

省エネルギーの日・防災安全自主点検日

口腔健康臨床科学講座会(水病)

2(木) 教務部(課)事務連絡会

競争的資金不正防止推進室打合せ

JCR・インパクトファクター講習会

平成22年度臨床研修歯科医募集病院説明会(本学対象)

院内感染症予防対策委員会(市病)

治験審査委員会・倫理委員会(市病)

4(土) 第4回東京歯科大学公開講演会

市川総合病院緩和ケア研修会(市病)

4(土) 臨床研修歯科医OSCE(水病)

5(日) 市川総合病院緩和ケア研修会(市病)

6(月) 第41回全日本歯科学学生総合体育大会結団式
プログラム責任者・副責任者会議

7(火) 第1回補助金管理・運営事務連絡会

8(水) リスクマネジメント部会

ICT会議

大学院事務連絡会

第290回大学院セミナー

救急委員会(市病)

ICU運営委員会(市病)

リスクマネジメント部会(水病)

医療機器安全管理委員会(水病)

薬事委員会(水病)

医薬品安全管理委員会(水病)

- | | |
|---|---|
| 9(木) 看護部運営会議(市病)
手術室運営委員会(市病)
医療安全管理委員会(市病) | 22(水) 病院連絡協議会(水病)
診療録管理委員会(水病)
サービス向上委員会(水病) |
| 10(金) 学生部(課)事務連絡会
科学研究費使用ルール説明会
ICT委員会(市病)
感染予防指導チーム委員会(水病) | 23(木) 業務連絡会
第292回大学院セミナー
看護部運営会議(市病)
部長会(市病) |
| 11(土) 1~4年生夏期休暇(～8/31) | 24(金) 教育ワークショップ(報告会)
クリニカルパス委員会(市病)
教育ワークショップ(報告会)(血脇記念
ホール・テレビ中継)(水病) |
| 13(月) 病院運営会議
個人情報保護委員会
大学院夏期ベーシックセミナー(～7/14)
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
臨床教育委員会
医局長会
医療安全研修会 | 25(土) 入試ガイダンス〔於：水道橋校舎〕
歯科衛生士専門学校3年生夏期休暇
(～8/30)
平成22年度第4回看護師採用選考試験
(市病)
大学移転説明会(血脇記念ホール)(水病) |
| 14(火) 粗大ゴミの廃棄(～16日)
臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
歯科衛生士専門学校臨床実習委員会
院内褥瘡対策委員会(市病) | 27(月) 医療連携委員会
電子カルテシステム運用管理委員会(診
療録管理委員会)(市病) |
| 15(水) 基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
歯科衛生士専門学校1年生夏期休暇
(～8/31)
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
CPC(市病) | 28(火) データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
理事会(臨時) |
| 16(木) 医療連携講演会
歯科衛生士専門学校臨地実習指導者連絡会
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
科長会(水病) | 29(水) 第1回サマーインターンシップ(看護部)
(市病)(～30日) |
| 17(金) 千葉校舎課長会
第291回大学院セミナー | 30(木) 歯科衛生士専門学校説明会
管理診療委員会(市病) |
| 18(土) 歯科衛生士専門学校2年生夏期休暇
(～8/31) | 31(金) 社保委員会(水病) |
| 21(火) 大学院夏期ベーシックセミナー(～7/23)
機器等安全自主点検日 | 平成21年8月
1(土) 第41回全日本歯科学学生総合体育大会開会
式(事務主管・明海大学歯学部)(～12日) |
| 22(水) 蔵書点検(～24日)
情報システム管理委員会 | 2(日) 平成22年度臨床研修歯科医説明会〔於：
水道橋校舎〕
3(月) 大学院「口腔がん専門医養成コース」初
期研修ワークショップ(～4日)
省エネルギーの日・防災安全自主点検日 |
| | 5(水) リスクマネージメント部会
ICT会議 |
| | 6(木) 院内感染症予防対策委員会(市病) |
| | 10(月) 病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会 |

- | | |
|--|--|
| 10(月) 感染予防対策委員会(ICC)
医局長会
プログラム責任者・副責任者会議 | 3(木) 院内感染症予防対策委員会(市病) |
| 12(水) リスクマネージメント部会(水病) | 5(土) 5年生第1回総合学力試験 |
| 14(金) ICT委員会(市病) | 7(月) プログラム責任者・副責任者会議
薬事委員会(市病) |
| 17(月) 延世大学校歯科大学との学生交流プログラム(～21日)
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日 | 8(火) 4年生HBワクチン接種(～9日)
大学院事務連絡会
教養科目協議会
歯科衛生士専門学校臨床実習委員会
防災訓練(市病) |
| 20(木) 業務連絡会
高度・先進医療委員会
歯科衛生士専門学校説明会
機器等安全自主点検日
臨床研修作業部会(水病) | 9(水) 看護部運営会議(市病)
救急委員会(市病)
治験審査・院内倫理委員会(市病)
リスクマネージメント部会(水病)
薬事委員会(水病)
放射線委員会(水病)
臨床検査室委員会(水病) |
| 22(土) 入試ガイダンス・オープンキャンパス〔於：千葉校舎〕 | 10(木) 6年生第2回総合学力試験(～11日)
医療安全研修会
医療安全管理委員会(市病)
手術室運営委員会(市病) |
| 23(日) 平成22年度臨床研修歯科医選考
歯科衛生士養成校入学志願者のための合同サマースクール(水病) | 11(金) ICT委員会(市病)
感染予防指導チーム委員会(水病) |
| 24(月) 医療連携委員会
電子カルテシステム運用管理委員会(診療録管理委員会)(市病)
平成22年度臨床研修歯科医志願者病院見学(～25日)(水病) | 12(土) 歯科衛生士専門学校創立60周年記念式典(ホテルニューオータニ幕張) |
| 29(土) 大学院・臨床研究デザインワークショップ | 14(月) 1～4年生前期授業終了
病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
臨床教育委員会
医局長会
歯科衛生士専門学校1・2年生前期授業終了 |
| 31(月) 1～4年生夏期休暇終了
NST会議(市病) | 15(火) 臨床教授連絡会
全体教授会
人事委員会
歯科衛生士専門学校1・2年生前期試験(～30日)
歯科衛生士専門学校教員会
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日 |
| 平成21年9月 | |
| 1(火) 1～4年生授業再開
教務部(課)事務連絡会
競争的資金不正防止推進室打合せ
歯科衛生士専門学校1・2年生授業再開
省エネルギーの日・防災安全自主点検日 | 16(水) 1・3・4年生前期定期試験(～29日)
大学院運営委員会 |
| 2(水) リスクマネージメント部会
ICT会議
輸血療法委員会
臨床検査部運営委員会
千葉校舎課長会
学生部(課)事務連絡会
口腔健康臨床科学講座会(水病) | |
| 3(木) 高度・先進医療委員会
学生会合同協議会
歯学体成績報告会 | |

- | | |
|--|--|
| 16(水) 大学院研究科委員会
図書委員会
CPC(市病) | 24(木) 管理診療委員会(市病)
病院連絡協議会(水病)
診療録管理委員会(水病) |
| 17(木) 2年生前期定期試験(～28日)
千葉校舎課長会
業務連絡会
第293回大学院セミナー
部長会(市病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
科長会(水病) | 25(金) クリニカルパス委員会(市病)
社保委員会(水病) |
| 18(金) 基礎教授連絡会
防災訓練
第2回補助金管理運営事務連絡会 | 28(月) 医療連携委員会
第86回歯科医学教育セミナー
歯科衛生士専門学校3年生前期試験
電子カルテシステム運用管理委員会(市病)
NST会議(市病) |
| 19(土) 午後のリサイクル(市病) | 29(火) 解剖慰霊祭(水道橋校舎)
薬事委員会
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
情報システム管理委員会 |
| 24(木) 歯科衛生士専門学校創立記念日
機器等安全自主点検日 | 30(水) 1年生総合学力模擬試験
看護部運営会議(市病) |

平成22年度東京歯科大学入学試験要項

推薦入学（一般公募制）

募集人員 約45名（指定校制推薦を含む）
（全募集人員128名中）

（趣旨）

人物・学力ともに優秀で、歯科医療担当者としての能力・適性について高等学校長が責任をもって推薦するもので、本大学への入学を強く希望する者に対し、本大学の選考方法によって入学を許可するものである。

（出願資格）

次の各条件を満たし、かつ高等学校長が責任をもって推薦する者。

1. 平成21年3月高等学校卒業生および平成22年3月高等学校卒業見込の者。
2. 人物・性格ともに優れ、健康である者。
3. 入学を許可された場合、必ず本大学に入学することを確約できる者。

選考内容

- (1) 小論文
- (2) 小テスト〔外国語（英語） 数学、理科（物理・化学・生物から1科目選択）〕
- (3) 面接

出願期間

平成21年11月2日（月）から平成21年11月11日（水）
（期間内必着のこと）

選考日・選考会場

選考日 平成21年11月14日（土）
選考会場 東京歯科大学 水道橋校舎
東京都千代田区三崎町2-9-18

合格通知

平成21年11月17日（火）（通知は郵送のみ）

帰国子女・留学生特別選抜

募集人員 若干名（全募集人員128名中）

（趣旨）

帰国子女および日本に留学しようとする外国籍を有する外国人で、本大学において歯科医学教育を受けることを強く希望する者に対し、本大学の選考方法によって入学を許可するものである。

（出願資格）

次の各項のいずれかに該当する資格を有し、入学を許可された場合、日本語での授業を理解できる者。

1. 外国において、平成20年4月から平成22年3月までに学校教育における12年の課程を修了した者および修了見込の者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
2. スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で、平成22年3月31日に18歳または19歳の者。
3. ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、平成22年3月31日に18歳または19歳の者。
4. フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、平成22年3月31日に18歳または19歳の者。

選考内容

次の試験を日本語で行う。

- (1) 小論文
- (2) 小テスト〔外国語（英語） 数学、理科（物理・化学・生物から1科目選択）〕
- (3) 面接

出願期間

平成21年11月2日（月）から平成21年11月11日（水）
（期間内必着のこと）

選考日・選考会場

選考日 平成21年11月14日（土）
選考会場 東京歯科大学 水道橋校舎
東京都千代田区三崎町2-9-18

合格通知

平成21年11月17日（火）（通知は郵送のみ）

学士編入学

募集人員 若干名

（編入年次）第2学年4月に編入

（出願資格）

4年制大学を卒業した者および平成22年3月卒業見込の者

試験内容

- (1) 小論文・小テスト(英語を含む総合試験)
- (2) 面接

出願期間

平成21年11月2日(月)から平成21年11月11日(水)
(期間内必着のこと)

試験日・試験会場

試験日 平成21年11月14日(土)
選考会場 東京歯科大学 水道橋校舎
東京都千代田区三崎町2-9-18

合格通知

平成21年11月17日(火)(通知は郵送のみ)

編入学

募集人員 若干名

(編入年次) 第2学年4月に編入
(出願資格)

次のいずれかを満たす者とする。

4年制大学卒業者および平成22年3月卒業見込の者

医療技術系短期大学を卒業した者または平成22年3月卒業見込の者

医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学

4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者

所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

試験内容

(1) 学力試験

外国語(英語:英、英、リーディング、ライティング、およびオーラルコミュニケーション、に共通な事項。ただし、実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。)

数学(数学:数、数、数A、数B。なお、数Bは[数列]と[ベクトル]を出題範囲とする。)

理科(物理、化学、生物の3科目のうち1科目を試験場で選択する。なお、出題範

囲は下記のとおりとする。)

- ・物理:物、物 [ただし、学習指導要領に示された物理のうち以下のものを除く「(3)物質と原子」の「イ 原子、電子と物質の性質」、「(4)原子と原子核」]
- ・化学:化、化
- ・生物:生、生 [ただし、学習指導要領に示された生物のうち以下のものを除く「(3)生物の集団」]

(2) 小論文

(3) 面接

出願期間

平成22年2月23日(火)から平成22年3月9日(火)
(郵送の場合、必着)

(土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試験日 平成22年3月13日(土)
試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎
東京都千代田区三崎町2-9-18

合格発表 平成22年3月16日(火)午後4時

一般入試(期)

募集人員 約50名(全募集人員128名中)

試験内容

(1) 学力試験

外国語(英語:英、英、リーディング、ライティング、およびオーラルコミュニケーション、に共通な事項。ただし、実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。)

数学(数学:数、数、数A、数B。なお、数Bは[数列]と[ベクトル]を出題範囲とする。)

理科(物理、化学、生物の3科目のうち1科目を試験場で選択する。なお、出題範囲は下記のとおりとする。)

- ・物理:物、物 [ただし、学習指導要領に示された物理のうち以下のものを除く「(3)物質と原子」の「イ 原子、電子と物質の性質」、「(4)原子と原子核」]
- ・化学:化、化

- ・生物：生、生 [ただし、学習指導要領に示された生物のうち以下のものを除く「(3)生物の集団」]

(2) 小論文

(3) 面接

大学入試センター利用試験(期)を併願する者は、一般入試(期)の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験(期)の「小論文」「面接」試験にかえる。

なお、この場合、一般入試(期)の時間割で受験する。

出願期間

平成21年12月16日(水)から平成22年1月27日(水)
(郵送の場合、必着)

(平成21年12月26日(土)から平成22年1月4日(月)の間および土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試験日 平成22年2月2日(火)

試験会場 東京会場

東京歯科大学 水道橋校舎
東京都千代田区三崎町2-9-18
大阪会場
天満研修センター
大阪府大阪市北区錦町2-21

合格発表日

平成22年2月5日(金)午後4時

大学入試センター利用試験(期)

募集人員 20名(全募集人員128名中)

(受験資格)

大学入試センター試験を受験した者で、本学が利用する教科・科目を解答した者。

試験内容

(1) 大学入試センター試験を受験する際、次の科目を受験しておくこと。

外国語「英語」

数 学「数学・数学A」、「数学・数学B」の2科目

理 科「物理」、「化学」、「生物」から2科目

理科について、3科目を受験した場合は、高得点の科目から2科目を合否判定に使用する。

(2) 小論文

(3) 面接

一般入試(期)を併願する者は、一般入試(期)の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験(期)の「小論文」「面接」試験にかえる。

なお、この場合、一般入試(期)の時間割で受験する。

出願期間

平成21年12月16日(水)から平成22年1月27日(水)
(郵送の場合、必着)

(平成21年12月26日(土)から平成22年1月4日(月)の間および土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試験日 平成22年2月2日(火)

試験会場 東京会場

東京歯科大学 水道橋校舎
東京都千代田区三崎町2-9-18
大阪会場
天満研修センター
大阪府大阪市北区錦町2-21

合格発表日

平成22年2月9日(火)午後4時

一般入試(期)

募集人員 約10名(全募集人員128名中)

試験内容

(1) 学力試験(出題範囲は期と同様)

外国語(英語) 数学、理科(物理・化学・生物のうち1科目を選択)

(2) 小論文

(3) 面接

大学入試センター利用試験(期)を併願する者は、一般入試(期)の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験(期)の「小論文」「面接」試験にかえる。

なお、この場合、一般入試(期)の時間割で受験する。

出願期間

平成22年2月23日(火)から平成22年3月9日(火)
(郵送の場合、必着)

(土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試験日 平成22年3月13日(土)

試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎

東京都千代田区三崎町2-9-18

合格発表日

平成22年3月16日(火)午後4時

大学入試センター利用試験(期)

募集人員 5名(全募集人員128名中)

(受験資格)

大学入試センター試験を受験した者で、本学が利用する教科・科目を解答した者。

試験内容

- (1) 大学入試センター試験を受験する際、次の科目を受験しておくこと。
 外国語「英語」
 数学「数学・数学A」、「数学・数学B」の2科目
 理科「物理」、「化学」、「生物」から1科目
 理科について、2科目以上を受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。
 - (2) 小論文
 - (3) 面接
- 一般入試(期)を併願する者は、一般入試

(期)の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験(期)の「小論文」「面接」試験にかえる。

なお、この場合、一般入試(期)の時間割で受験する。

出願期間

平成22年2月23日(火)から平成22年3月9日(火)
(郵送の場合、必着)

(土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試験日 平成22年3月13日(土)
試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎
東京都千代田区三崎町2-9-18

合格発表日

平成22年3月16日(火)

学納金 全入試制度共通

入学金	600,000円(入学時のみ)
授業料	3,500,000円
歯学教育充実費	4,300,000円(入学時のみ)
施設維持費	1,000,000円
合計	9,400,000円

平成22年度東京歯科大学大学院歯学研究科(博士課程)

学生募集要項

募集人員 歯学専攻34名(社会人特別選抜(若干名)、口腔がん専門医養成コース(若干名)を含む)
入学願書受付期間

第 期 平成21年10月 1日(木)～平成21年11月27日(金)まで

第 期 平成22年 1月12日(火)～平成22年 2月10日(水)まで

試験科目

- 一 般 1) 外国語(英語:辞書(電子辞書)の持込み可)
- 2) 専攻主科目試験および面接

- 社会人 1) 外国語(英語:辞書(電子辞書の持込み可)
- 2) 口頭試問(面接)(提出書類の審査によって社会人としての業務歴または研究内容、基礎学力の評価を総合的に判断し選考する)
- 3) 専攻主科目試験および面接

社会人選抜については、原則として基礎系講座・研究室のみを志望できる
選考日・選考会場

第 期 平成21年12月 5日(土) 東京歯科大学 千葉校舎

第 期 平成22年 2月20日(土) 東京歯科大学 千葉校舎

合格者発表

第 期 平成21年12月11日(金)正午 千葉校舎教務課前掲示板

第 期 平成22年 2月26日(金)正午 千葉校舎教務課前掲示板

学 費

入 学 金 300,000円

授 業 料 600,000円

学 生 会 費 2,000円

施設維持費 100,000円（入学当初のみ）ただし、本学を卒業した者からは徴収しない。

受験資格（一般）

1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。

平成18年4月以降に歯科医師免許を取得した（する）者は、原則として1年以上の歯科医師臨床研修を修了していること。

2) 1) と同等以上の学力があると認められた者。

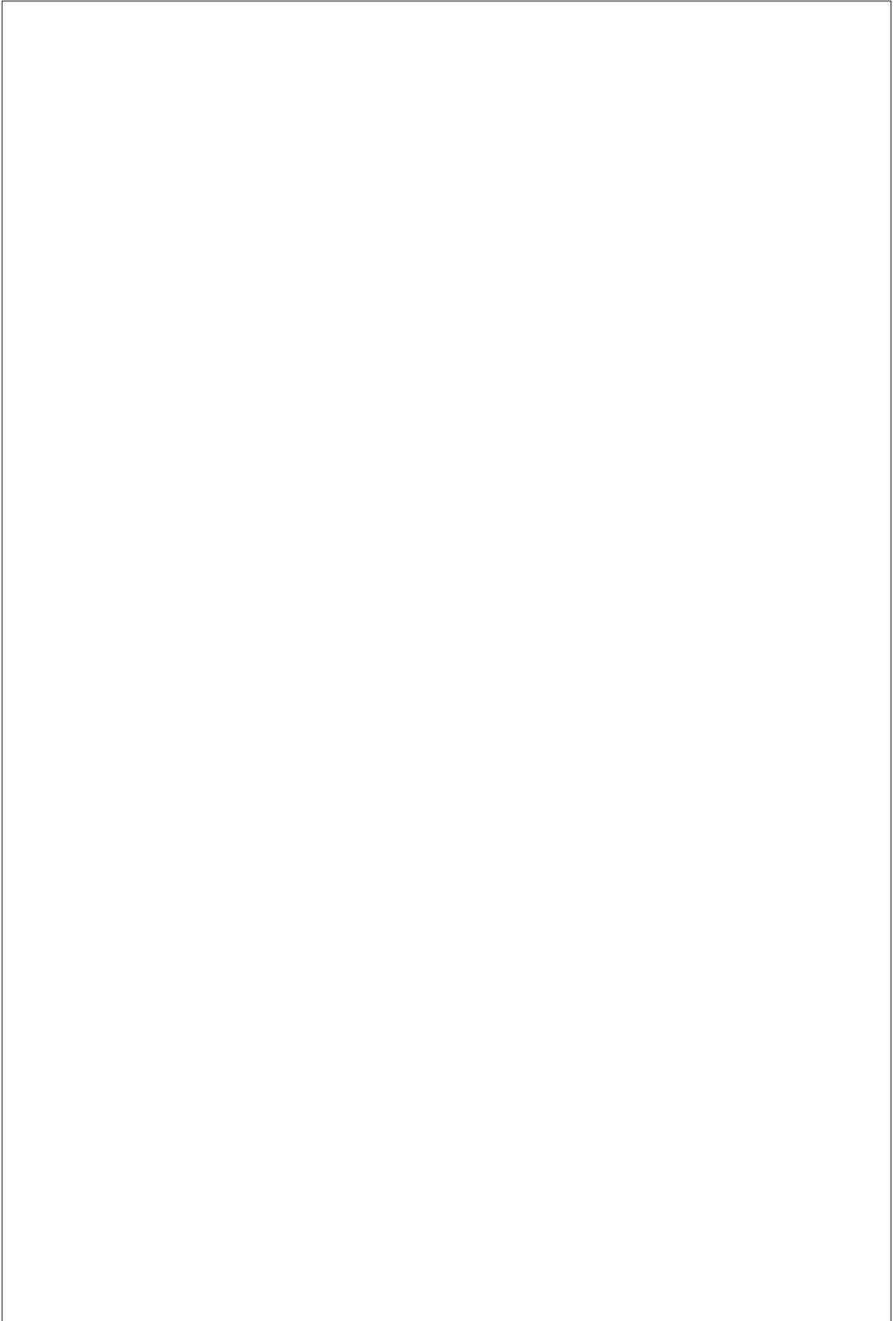
受験資格（社会人）

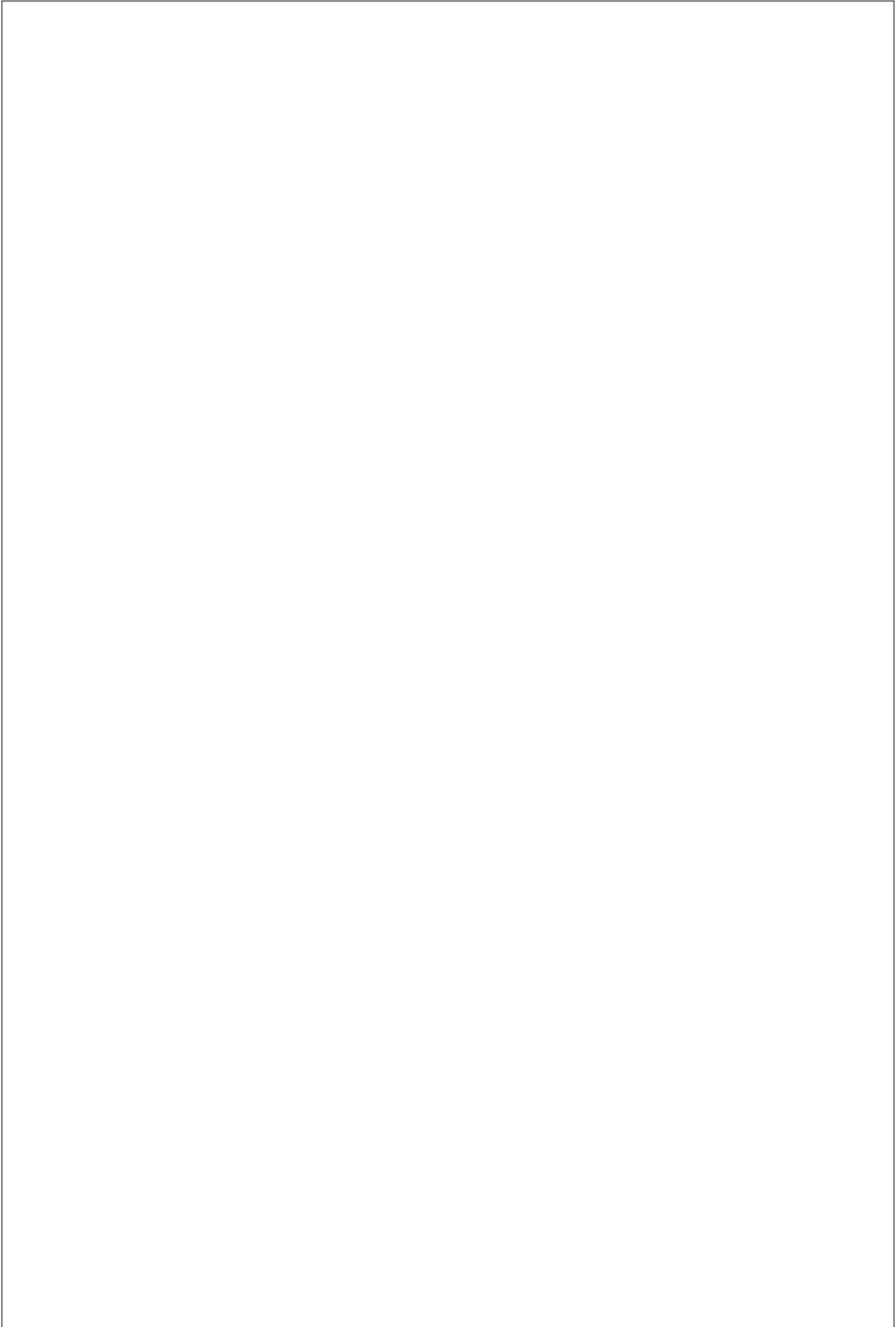
開業医、大学、研究所の勤務医・教員・研究者等として原則2年以上の経験を有し、入学後もその身分を有する者で、以下の資格を満たしている者。

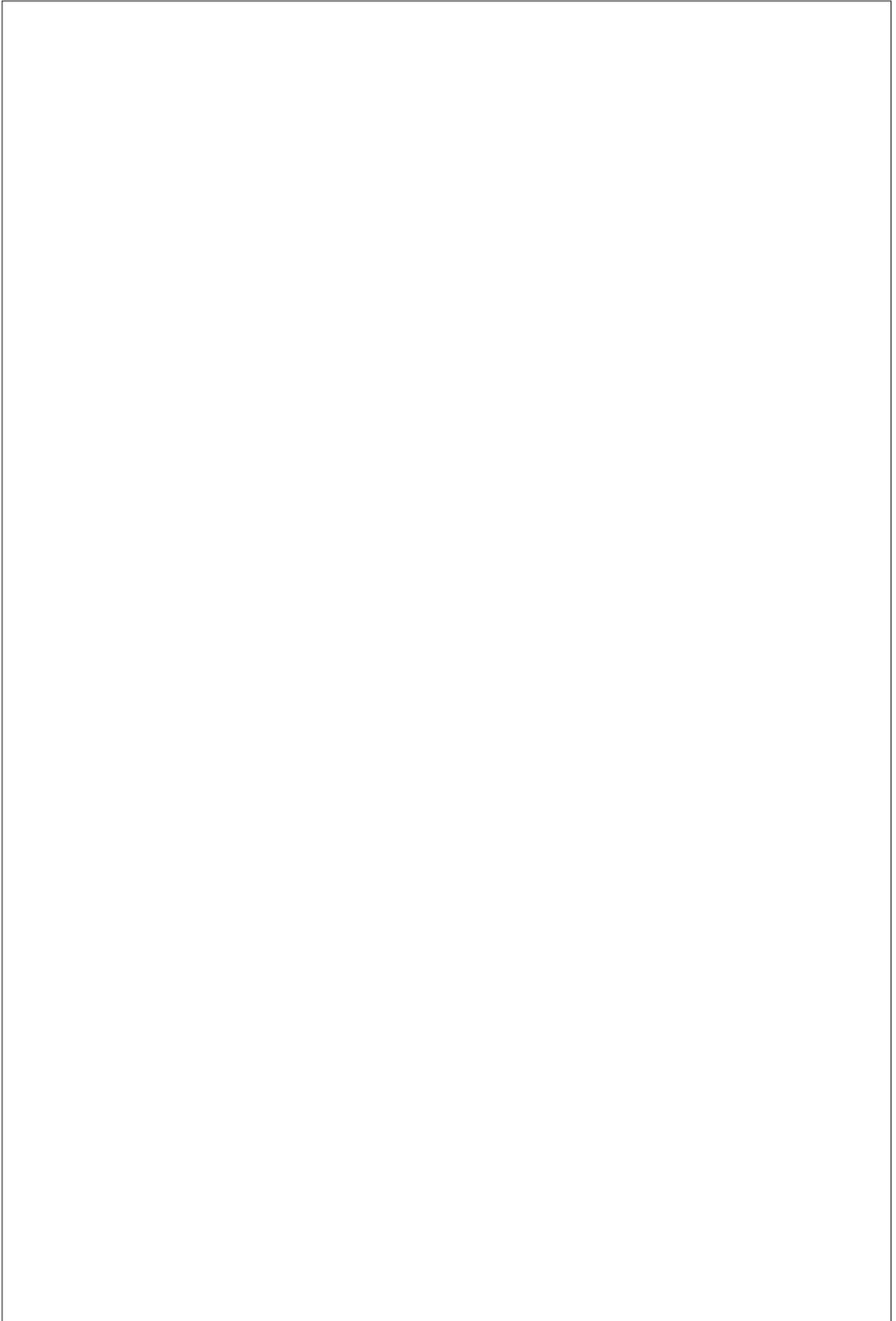
1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。

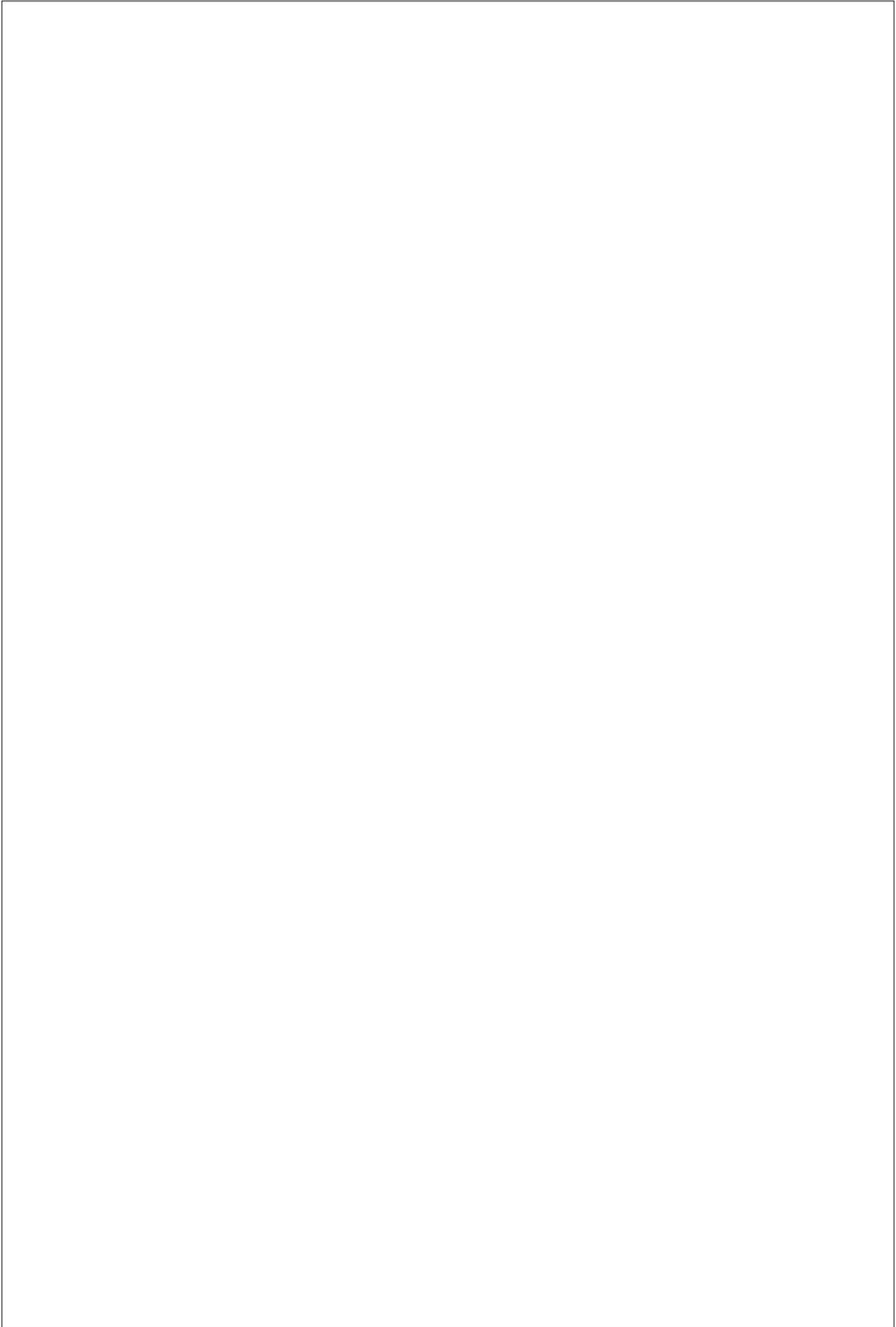
2) 1) と同等以上の学力があると認められた者。

規 程











博士(歯学)学位記授与

人事その他

[訂正]

広報第237号記事訂正 / 第237号の記事中に次の間違いがありましたので、お詫びして訂正致します。

20頁 右段 33行目 (誤) 齋藤 正 (正) 佐藤浩一

33頁 貸借対照表 単位 (誤) 百万円 (正) 億円

東京歯科大学広報 編集委員

内山健志 (委員長)

井上直記 江波戸達也 王子田 啓 狩野龍二 金安純一 河田英司 坂本智子 椎名 裕 柴家嘉明
新谷益朗 田口達夫 日塔慶吉 野島靖彦 橋本貞充 前田健一郎 米津博文 (平成21年9月現在)

編集後記

東京歯科大学水道橋移転計画のうち、TDCビル改修工事は来年度より着工する予定であり、これに伴い水道橋校舎2階(血脳記念ホールおよび会議室)については平成22年10月1日より使用出来なくなりますと法人事務局よりお知らせがありました。本学同窓の先生方の多くは、「水道橋校舎2階」と聞くと、急勾配の階段教室や基礎科目実習室が頭に浮かぶのではないのでしょうか。当時、学生達は実習室の窓から飛び込んでくる後樂園球場の大歓声を振り払い黙々と実験に勤んでおりましたが、なかにはナイターの戦況が気になって心ここにあらずといったクラスメートも少なからずおりました。

さて、今号編集後記の写真は東京ドームです。東京ドームは空気膜構造屋根を持つ米国ミネソタ州ミネアポリスのメトロドームをモデルとして設計された日本初の屋根付き多目的ドームで、後樂園競輪場跡地に1988年3月に開場いたしました。この東京ドームは読売巨人軍の本拠地球場として広く知られていますが、野球場としてだけでなく、多目的ホールとしても1990年代前半までは首都圏最大級の規模でした。東京の一大ランドマークとしての存在感を示していたことから、地方自治体や観光協会の物産展、大手企業の新製品展示会など、いわゆる見本市会場としても頻回に使用されていました。しかし、バブル崩壊後の経済の低迷や、施設使用料の高さ、元々が野球場であるがゆえの見本市会場としての構造的な不便さなどがネックとなり、開催されていたイベントの多くは、プリズムホールや東京ビッグサイトなど他の場所に移されました。現在、東京ドームは見本市会場といった用途での使用は大幅に減り、野球場という本来のあるべき姿に戻っています。

東京歯科大学が水道橋に移転した折には、本学生にとって東京ドームは最も身近な野球場となります。もっともドーム球場ですから、ナイターの大歓声が教室や実習室に飛び込んでくることはないでしょう。学生が講義や実習に集中できることは大変良いことですが、せつかくの球音と歓声を直接感じることが出来ないのは、ちょっと残念な気もします。

(広報編集委員長：内山健志)

(広報編集委員：米津博文)



東京ドーム